

## 平成29年度研究・教育活動報告

### アーウィン マーク

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)  
音韻研究20号 (編集委員会)
- (5) 教育, 地域連携等の活動  
言語学演習, 英語コミュニケーション, 英語 (コミュニケーティブ), 英語 (総合)
- (6) 研究・教育活動に関するコメント

### 相沢 直樹

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)  
「松井須磨子と島村抱月 — 日本の新しい演劇を切り開いた人びと」, 長塚英雄 (編) 『続・日露異色の群像30 — 文化・相互理解に尽くした人々』 ロシアン・アーツ / 生活ジャーナル, 2017年12月, 260-285頁.  
「平成20年代の『ゴンドラの唄』の考現学—「命短し恋せよ乙女」とそのもじりの研究—」, 『山形大学人文社会科学部研究年報』 第15号, 2018年3月, 79-104頁.
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)
- (5) 教育, 地域連携等の活動  
[授業]  
(前期) ロシア語 I (3), ロシア語学演習, 欧米文化概論, 比較文化演習, 現代外国語 (ロシア語)  
(後期) ロシア語 II (3), ロシア語購読, ロシア文化論, 文学概論, グローバル・スタディーズ  
基礎講義  
[社会活動]  
芸術座百年委員会主催「抱月と須磨子 芸術座, 百年の時を超えて」(2017年9月13日~18日)の企画・運営:「須磨子幻影 響きあう声と声 SPレコードと朗読」(9月16日, 牛込箆笥地域センター コンドル), ギャラリー展示 (9月13日~18日, ギャラリー五感肆パレアナ) など.  
放送大学 (面接授業)「ロシアの言語と文化 (入門篇)」 2017年12月2日・3日, 放送大学山形学習センター.
- (6) 研究・教育活動に関するコメント

## 赤倉 泉

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育，地域連携等の活動

基盤：中国語

専門：アジア政治論，アジア政治論演習

大学院：現代中国政治特論，現代中国政治特別演習

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

研究：前年に引き続き，1950年代における中国の自由化運動とその現代的意義について研究した。

## 阿部 晃士

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）

・阿部晃士，2017年9月，「環境行政における制度の導入と住民の理解－ごみ有料化に関する意識」環境科学会2017年会（2016学会賞受賞記念シンポジウム「環境に関する認知，態度変容，行動に関する研究」）。

- (4) 研究成果（その他）

・阿部晃士・堀籠義裕・茅野恒秀・金澤悠介・平井勇介，2018年3月，『復興に関する大船渡市民の意識調査－第3次横断調査報告書（概要）』岩手県立大学総合政策学部震災復興研究会社会調査チーム。

・山田浩久・阿部晃士，2018年3月，「観光施策や観光施設に与える影響」山形大学人文社会科学部附属やまがた地域社会研究所『国道347号通年通行による地域活性化効果の調査研究（平成29年度版 調査研究）－尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会委託事業 成果報告書 一』。

- (5) 教育，地域連携等の活動

（担当授業）

・現代社会学演習，社会学概論，調査方法論，卒業論文（社会学正指導6名，心理学正指導1名），社会の教材分析A，総合講座I（地域公共政策コース），意識調査から見る現代社会（基盤，社会学）（以上，山形大学）

・計量社会学特論Ⅱ，計量社会学特別演習（山形大学大学院）

・社会学（米沢栄養大学）

（地域連携）

・山形県統計専門研修（2017年9月）。

・山形県ライフスタイル研究会（座長，2017年10月より）。

・山形南高校出張講義「地方の若者は幸福か－地方創生と社会学」（2017年9月）。

・湯沢高校模擬講義「社会学は問題解決にどう役立つのか」（2017年9月）。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、2つの科研費プロジェクト（代表及び分担）において、地道に調査を継続している。地域公共政策コースでの教育活動が始まったが、今後しばらくは並行して人間文化学科での担当も重なるため、種々の調整を要するようになった。

**阿部 未央**

(1) 研究成果（著書）

- ・論文「第3部 非正規雇用と労働法 第11章 パートタイム労働法」『講座労働法の再生 第6巻 労働法のフロンティア』（日本労働法学会編），2017年6月，211-228頁

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

[教育] 労働法，社会保障法，労働法演習，少子化を考える，スタートアップセミナー，公務員講座

非常勤：東北大学法科大学院にてジェンダーと法，東北学院大学法学部にて社会保障法，労働法Ⅲ（団体法）

[地域連携]

- ・山形県労働委員会公益委員
- ・山形県行政不服審査会委員
- ・山形県総合政策審議会委員
- ・山形県衛生研究所倫理審査委員会委員
- ・出張講座 宮城県気仙沼高等学校（2017年10月）
- ・外部講師 山形県経営者協会・連合山形主催 労使共同セミナー（2017年12月）
- ・外部講師 山形県労働委員会主催判例研究会（2018年2月）
- ・取材協力 NHK 山形（2018年3月）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

山形県労働委員会は10月開催の「北海道及び東北六県労働委員会連絡協議会研修会」において7年に1度の幹事となっていたため、研修課題の作成に多くの時間を割いて協力することができた。分科会では座長も経験させて頂き勉強になった。講演会の講師依頼やゼミでは「働き方改革」関連、「有期労働者の無期転換」が旬のテーマであった。難しい論点にゼミ生たちが意欲的に取り組み、ゼミでは楽しい時間を共有することができた。

**天野 尚樹**

(1) 研究成果（著書）

【共著】今西一・飯塚一幸編『帝国日本の移動と動員』大阪大学出版会，2017年。

(2) 研究成果（論文）

【単著】Korean Networks in the Russian Far East: Openness, Accessibility and Adaptiveness, North

East Asia Today, No. 3, 2017, pp. 21-25.

【単著】「田舎の「革命」：革命・内戦期サハリン島の地域構造」『アリーナ』第20号，2017年，81-94頁。

(3) 研究成果（学会発表）

「ボーダーアイランドの比較史—樺太と沖縄，あるいはボーダーの不安をめぐる」，シンポジウム「内なる境界／外なる境界」，北海道大学（札幌市），2017年6月24日。

「岩かゲートウェイか？—日本の島嶼から考える(1) ボーダーとしての宗谷海峡—「くにざかい」から「国境」へ」，日本国際文化学会全国大会，宮崎県立大学（宮崎市），2017年7月9日。

(4) 研究成果（その他）

【書評】「庄声『帝国を創った言語政策：ダイチン・グルン初期の言語生活と文化』」『山形大学歴史・地理・人類学論集』第19号，2018年，37-43頁。

(5) 教育，地域連携等の活動

【講演】「「川の向こう岸」と「海外」—ボーダーとしての宗谷海峡」，北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター平成29年度公開講座「境界地域から北東アジア国際関係を考える」，北海道大学（札幌市），2017年5月29日。

【出張講義】山形県立山形南高等学校，2017年9月13日。

【出張講義】宮城県立石巻高等学校，2017年10月17日。

【出張講義】岩手県立盛岡第二高等学校，2017年10月18日。

【担当授業】ロシア語Ⅰ・Ⅱ，ロシア語講読，時事ロシア語，極東地域論，国際文化概論。

【出講】室蘭工業大学大学院工学研究科（集中講義）。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

## 荒井 太郎

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育，地域連携等の活動

【担当授業】

基盤：企業活動と法律（前期），国際ビジネス法務入門（後期）

専門：専門基礎演習（前期），国際取引法（後期），国際取引法演習（通期），総合講座Ⅱ（総合法律）（国際取引法）

【地域連携】

きらやかマネジメントスクール2016（経営と法律）講師

長井創生会議委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

来年度は，小白川キャンパスキャリアサポートセンター長として，インターンシップ等の就職支援事業の一層の拡充に取り組んでいきたい。

## 新宮 学

### (1) 研究成果 (著書)

- ・森田憲司等編『北京を知るための52章』(共著) 明石書店, 2017年12月 「第13章 明代の北京城—近世東アジアの百万都市—」88-93頁を担当

### (2) 研究成果 (論文)

- ・「西方君記念碑と早期の「米琉」」『山形大学歴史・地理・人類学論集』19号 77-90頁 2019年3月

### (3) 研究成果 (学会発表)

- ・「近代山形最初の郷土史家, 伊佐早謙の仕事」西村山地域史研究会第36回談話会 2018年2月24日 寒河江市

### (4) 研究成果 (その他)

- ・「特別展「沖縄と山形をつないだ琉球漢詩文展」の開催に向けて」『山形大学附属博物館館報』43号 1-5頁 2017年5月 山形大学博物館
- ・「72年前の入学式と勤労働員——山大オープンキャンパスに寄せて」『山形新聞』2017年7月31日付け文化欄 山形新聞社
- ・「郷土史家の先駆け 伊佐早謙に光を当てる」『山形新聞』2017年11月7日付け文化欄 山形新聞社

### (5) 教育, 地域連携等の活動

- ・出張講義: 大学で学ぶ「新しい世界史」 2017年10月10日 栃木県立大田原高等学校「出前講義」
- ・公開講座: 隋唐の長安から北宋の開封へ—東アジアにおける「都城」の変容 2017年6月12日 山形大学公開講座「都市と社会—歴史・景観・表象—」
- ・教職免許状講習 (高校地歴・中学社会): 「東アジアからみた世界史」2017年8月3日

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

- ・附属博物館館長として6月に大学博物館等協議会第20回大会及び日本博物学会第12回大会を, 博物館と図書館スタッフの協力を得て開催した (会場: 小白川キャンパス).
- ・10月に, 附属博物館・小白川図書館共催の特別展「山形と沖縄をつないだ琉球漢詩文—近代山形最初の郷土史家, 伊佐早謙が収集した林泉文庫の世界—」を企画開催し, 中国学や琉球史の研究者の関心を集めた.

## 池田 弘乃

### (1) 研究成果 (著書)

【共編著】谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編『セクシュアリティと法 —身体・社会・言説との交錯』, 法律文化社. 「クィア—クィアな視点は法学に何をもたらすか?」(144-154頁)を寄稿.

### (2) 研究成果 (論文)

「ケアへの敬意—倫理から制度へ」, 『法哲学年報 2016 ケアの法, ケアからの法』, 有斐閣, 8-22頁.

「一人前の市民とは誰か?—クィアに考えるために」, 『法学セミナー』, 日本評論社, 753号, 64-67頁.

「マイノリティの権利」、『論究ジュリスト』、有斐閣、22号、41-47頁。

(3) 研究成果（学会発表）

「市民の徳とケアの倫理」（規範経済学研究会、2017年10月27日、一橋大学）。

「ケア関係から見た婚姻制度：生の脆弱さと性の多様性という観点から」（ジェンダー法学会第15回学術大会、2017年12月2日、東北学院大学）。

「アセクシュアルと法序説：クィアな法理論は可能か？」（法理学研究会2月例会、2018年2月24日、同志社大学）。

「ロボットの「尊厳」と人間の責任」（ソフトマターロボティクスコンソーシアム第3回シンポジウム、2018年3月2日、TKP ガーデンシティ竹橋）

「ケア関係と市民の品位：「一人前」という観念を手がかりに」（現代倫理学研究会3月例会、2018年3月4日、東京外国語大学）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

[担当科目] 私法入門、法哲学、法哲学演習、法経政策専門基礎演習、総合講座Ⅱ（オムニバス）、

「キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）」（オムニバス）。

[地域連携等] 出張講義・高校訪問（弘前高校、鶴岡中央高校、東桜学館高校）、山形県医療審議会（2016年10月1日より継続中）、ファーラ大学（山形市男女共同参画センター・ファーラ）、YBC ラジオドキュメント「私は、LGBT」（2017年5月29日放送、取材に応じ識者コメントを寄せる）。

[学内委員] 学部広報委員会。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

様々な分野の研究者と交流を深めることができ来年度以降の研究について大きな刺激を受けることができた。

## 池田 光則

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

山大学生の日本語—アンケート調査から見ることばと意識

（2018年3月17日 「山形県ことばと文化研究会」における研究発表）

(5) 教育、地域連携等の活動

(a) 担当授業

- ・学部専門教育科目：言語学概論、言語学特殊講義、ラテン語Ⅰ、Ⅱ
- ・基盤共通教育科目：言語学概論（言語学）、言語学とその周辺領域（言語学）、英語
- ・大学院：言語学特論、言語学特別演習

(b) 卒業論文指導テーマ

- ・人物を表すメタファーとその理解について
- ・日本語と諸外国語における色彩語のメタファーの対照研究

(c) 出張講義

- 山形県立米沢東高等学校 (2017年10月17日)
- 福島県立須賀川桐陽高等学校 (2017年12月7日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

石澤 靖典

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)

研究会「大正・昭和期における東北の写真家および写真団体の諸相」(2018年3月28日, 於山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所) コーディネーターと司会

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

- 学部専門科目: 美学・芸術学概論, 芸術文化特殊講義, 表象文化講義, 美術史演習, 芸術文化演習(一), 芸術文化演習(二)
- 大学院科目: 美学・芸術史特別演習
- 基盤教育科目: 美術の歴史, 西洋美術鑑賞入門

[卒論指導]

- 9名担当 (ミケランジェロの《ピエタ》(サン・ピエトロ大聖堂) について, カラヴァッジョにおける天使図像について, ヨハネス・フェルメール《信仰の寓意》について, ミレー《種をまく人》にみる農民観, オディロン・ルドン石版画集『起源』について, 鈴木其一《朝顔図屏風》について, サブカルチャーにおける異類婚姻譚, 市川春子の生命観, 『ヘルタースケルター』りりこ論)

[地域連携]

- 「「死せる男」の絵画とヨーロッパ美術の伝統」, NHK文化センター郡山, 一日講座, 2017年11月11日
- 平成29年度「山形の文化遺産を世界に発信するプロジェクト」(山形文化遺産活用事業実行委員会) 第一回検討会議, 2017年5月18日, 於山形美術館
- 平成29年度「山形の文化遺産を世界に発信するプロジェクト」(山形文化遺産活用事業実行委員会) 第二回検討会議, 2018年2月16日, 於山形美術館

(6) 研究・教育活動に関するコメント

- 研究活動としては科研費・基盤研究Cの課題(ルネサンス期のフィレンツェにおける芸術家と都市の称揚に関する研究)を進めたが, 成果を公表するに至らなかった。反省点として次年度に生かしたい。
- 映像文化研究所の活動として, 明治～昭和期における東北写真史にかんするシンポジウムを開催する予定だったが, 準備に十分な時間を割くことができず, 結果的に研究会を一度開催するにとどまった。しかし, 研究会において有意義な意見交換と今後の方向性が確認されたので,

来年度以降の活動に向けてのしっかりとした足掛かりを得ることはできた。

- 教育に関しては、指導した卒論において独創的でレベルの高い研究がいくつか見られた反面、課題に対する取り組みが不十分で、消化不良気味に終わった論文も散見された。来年度以降は卒論をもう少し早くから意識させ、調査手順や論の構成についての指導を徹底しながら、全体のレベルアップに努めたい。

## 和泉田 保一

### (1) 研究成果（著書）

共著

片桐直人＝岡田順太＝松尾陽編著『別冊法学セミナー 新・総合特集シリーズ8 憲法のこれから』（日本評論社・2017年）のうちの「自主的都市秩序と都市計画制度の変容」95-104頁

### (2) 研究成果（論文）

論説

「開発許可処分の法的効果の意義についての考察」法学（東北大学）81巻6号（2018）27-48頁

「建築行為に対する用途地域制限及び形態規制の設定と適用の法的意義についての考察」法政理論（新潟大学）50巻1号（2018）69-119頁

### (3) 研究成果（学会発表）

判例報告

前橋地判平成29年3月17日裁判所ウェブサイト（東北大学公法判例研究会，5月）

### (4) 研究成果（その他）

### (5) 教育，地域連携等の活動

担当授業

行政法Ⅰ，行政法Ⅱ，行政法演習，総合講座Ⅰ（「条例による地域政策」）・Ⅱ（「行政法」），スタートアップセミナー，人文学部公務員対策講座（集団討論2コマを担当）

地域連携活動

[審議会等委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形県議会情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形大学医学部倫理審査会委員（継続）

山形大学 COI 社会システム研究委員会委員（継続）

山形市行政不服審査会委員（継続）

上山市行政不服審査会委員（継続）

上山市情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

長井市行政不服審査会委員（継続）

西置賜行政組合不服審査会委員（継続）

山形市都市振興公社評議員（5月～）

[外部研修講師]

国土交通省北陸地方整備局職員研修「法律」(7月)

山形市役所職員研修「行政法」(9月)

[講演]

山形都市監査委員会定期総会・研修会講演「監査制度と行政法学」(4月20日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

修士課程の指導教員(石崎誠也新潟大学教授), 博士課程の指導教員(稲葉馨東北大学教授)が, 平成29年度末に共に定年退職を迎えるため, 退職記念論文の執筆に忙殺された。なお, 年度末には, 西荳章教授の喜寿記念論文の締切が控えている。

**伊藤 晶文**

(1) 研究成果(著書)

(2) 研究成果(論文)

(3) 研究成果(学会発表)

伊藤晶文(2017): ベルー, ナスカ台地における現在の地形変化と岩屑の移動, 2017年5月, 2017年度東北地理学会春季学術大会。

伊藤晶文・小岩直人(2018): 陸上および海底地形を結合したDEMを用いた2011年東北地方太平洋沖地震津波後の海浜地形変化の解析—宮城県蒲生干潟周辺を事例に一, 2018年3月, 2018年日本地理学会春季学術大会。

(4) 研究成果(その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

(前期) 環境地理学概論, 環境地理学演習, 環境地理学調査実習, 自然地理学(地理学), 環境地理学特論Ⅱ

(後期) 地図情報論, 地圏環境論演習, 人間文化入門総合講義(分担), 社会の教材分析A(分担), 自然地理学(地理学), 環境地理学特別演習

[地域連携]

国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員(東北地区)

宮城県環境影響評価技術審査会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

国内(仙台湾岸)において, 巨天津波後の海浜地形変化に関する研究を実施した。ベルーでは, ナスカ台地における地形変化量に関する調査を引き続き実施した。

**今村 真央**

(1) 研究成果(著書)

(2) 研究成果(論文)

On the Mobility of Religious Communities: Migration and Translation of Protestant Christianity—seen from Southeast Asia 『山形大学人文社会科学部研究年報』第15号, 210-214, 平成30年3月

Evangelical Vernacularism: How Protestant Missions Have Delineated the Ethno-linguistic Boundaries

in Upland Southeast Asia Compilation of Papers presented at the Consortium for Southeast Asian Studies in Asia Conference 2017 (March 2018)

(3) 研究成果 (学会発表)

1. 「性愛規範の歴史研究に向けて」(4月8日, 東南アジアのLGBT研究会, 京都大学)
2. 「戦争の戦争の記憶: レジリエンスとトラウマ」(5月13日, 東南アジア冷戦史研究会, 京都大学)
3. 「シンポー族: 仏教とかチンという例外」(6月17日, 津田塾大学)
4. 「宗教の近代化と翻訳: 揺れ動くカチン・キリスト教」(7月15日, 東南アジアの宗教パラダイム研究会, 山形大学蔵王山寮)
5. Kachin Evangelical Travel Agency (オックスフォード大学, EuroSea2018学会)
6. 「性的規範: コスモポリタンとヴァナキュラー」(10月21日, 東南アジアのLGBT研究会, KKR 山形蔵王)
7. Conversion to Modernity by Peter van der Veer (11月21日, 京都大学東南アジア研究所)
8. After the Magic? Protestant Vernacularism among the Kachin (12月16日, バンコク, チュラロンコーン大学, SEASIA2018学会)
9. Spaces of Ethnicity (1月20日, 上智大学)
10. 「雲南・カチン・アッサム回廊」(2月16日, 京都大学東南アジア研究所)
11. Rethinking Zomia as a frontier space 京都大学 (3月23日, 京都大学東南アジア研究所)

(4) 研究成果 (その他)

山形大学学長定例記者会見で, 「フィリピン・ウィーク」の発表.

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

基盤: 「戦争の記録と記憶」「グローバル社会に生きる君たちへ」

専門科目: 東南アジア地域論, 国際協力論, 国際文化概論, 近現代アジア史

大学院: 東南アジア地域論

山形国際ドキュメンタリー映画祭開催期間中(2017年10月)に「フィリピンウィーク」を山崎彰教授と共に企画・開催した. フィリピンの映画を焦点に, 提携校であるサン・カルロス大学から2名, 京都大学から1名の計3名の研究者を招へいして, 一連のイベントを学内外で催した.

また, マグサイサイ賞受賞者のラパイ・センロー氏をミャンマーから招き講演を開催した.

この二つのイベントは山形新聞にも記事として載った.

ミャンマーの大学と学部と交流協定を結び, 「ミャンマー実習」を企画・実行した. ミャンマーの地方での実習は日本でもほぼ前例がなく, 初めての試みであったが学生の反応も良く, 手応えがあった.

東南アジア学会に理事として加わった. 2年に一度, 山形で比較的大きな研究会を開催することになった.

(6) 研究・教育活動に関するコメント

4つの科研プロジェクトに代表もしくは分担者として加わっていたので, 学会・研究会での発表を盛んに行った.

山形映画祭で、学部としてのイベント（「フィリピン・ウィーク」）を催した。地域連携活動として類まれな機会なので今後も積極的に関わって行きたいが、後期の初めという難しいタイミングなので対策が必要であることが分かった。

「ミャンマー実習」で、現地での交流と調査を強調する新しいタイプの授業を導入することができた。（引率教員一人で行い、財政負担も抑えたが、TAの必要性を痛感した。）ミャンマーの学校とは教育連携は、研究とも絡めて推し進めて行きたい。

教育では、学生の文章に対するコメントを個別に詳しく伝えたところ、学生からの反応がとても良かった。今後このアプローチを強化したい。

## 岩田 浩太郎

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

〔論文〕

- ・「村田商人の歴史的条件（下）－全国市場との関係をふまえて－」（『仙臺郷土研究』復刊第42巻第1号（通巻294号），2017年6月，2～19頁）
- ・「奥羽地方における河内木綿の流通－山形商人を中心に－」（『八尾市立歴史民俗資料館研究紀要』第29号，2018年3月，1頁～15頁）

〔研究ノート〕

- ・「三井大坂両替店の情報管理」（三井文庫論叢第50号別冊『三井文庫史料 私の一点』公益財団法人三井文庫，2017年5月，24～25頁）

〔報告〕

- ・「文化の窓 風土と向きあう－私の現場から① 村山と南仙－地域史と旧家保存の現場から－」（『歴史評論』第813号，2018年1月，78～79頁）

(3) 研究成果（学会発表）

〔講演・講座〕

- ・「柏倉九左衛門家の歴史について」（天童東村山地域史研究協議会設立20周年記念講演会〔同会平成29年度総会〕，2017年9月3日，於中山町中央公民館）。
- ・「山形商人の上方取引－奥羽への河内木綿の流通－」大阪府八尾市立歴史民俗資料館平成29年度特別展「河内木綿－河内から近江，そして最上へ－」記念講演会，2017年11月4日，於高安コミュニティセンター2階会議室）
- ・中山町古文書解説・郷土史講座講師（「岡村文書・人別宗旨改帳」2018年3月22日，於中山町中央公民館）

〔地域でのゼミナール発表会〕

- ・「柏倉与左衛門家について」(山形大学日本経済史〔岩田〕ゼミナール「与左衛門家の歴史」発表会，2018年1月20日，於中山町岡地区文化交流センター会議室)
- ・「岡村民の歴史と柏倉家」（柏倉九左衛門家ひなまつり2018特別プログラム・山形大学日本経済史〔岩田〕ゼミナール発表会，2018年3月11日，於中山町岡地区文化交流センター大広間）

(4) 研究成果（その他）

〔外部資金〕

- 科学研究費補助金・基盤研究（C）「近世近代地方商人の経営と地域経済構造－宮城県村田町を事例に－」（研究代表者），研究期間2015年4月～2019年3月。

〔その他〕

- 解説「方法としての朗読劇－地域史の創造－」（佐藤俊介編著『中山町のある朝の様子－明治二十一年四月二日－』〔朗読劇台本〕NSおらがまち工房，2018年2月，32頁）

(5) 教育，地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- 基盤教育科目：基幹科目「歴史にみる共生」（共生を考える）
- 専門教育科目：日本経済史，地域経済史，日本経済史演習，法経政策専門基礎演習，総合講座Ⅲ（オムニバス・1回分）
- 大学院教育科目：日本近世史特論Ⅱ，日本近世史特別演習，歴史文化特別研究Ⅰ

〔委員会活動，その他〕

- 全学：研究活動に関する行動規範委員会委員，研究活動の不正行為に関する告発受付窓口の責任者，科研費アドバイザー
- 学部：経済・マネジメントコース代表（2017年4月～，「昇任人事案件に関する大学本部の説明責任に関する意見書」提出），目標評価委員会委員（2016年11月～，「三重大学入試関係ヒアリング報告書」提出），教員選考委員会委員（グローバル経済史），経済・マネジメントコース人事調整委員会委員，社会科学系運営委員会委員，共通問題作成検討ワーキンググループ委員，高校訪問重点校（仙台第三高等学校）担当，やまがた地域社会研究所所員

〔社会活動〕

- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員（2012年4月～）
- NPO 法人柏倉家文化村顧問（2006年～）
- 山形県中山町柏倉家住宅建物調査委員（2017年5月～）
- 山形県中山町柏倉家住宅保存・利活用検討会議委員（2017年7月～）
- 山形県中山町柏倉家文書目録整理員（2018年2月～）
- 柏倉惣右衛門家の歴史民俗生活文化に関する聞き取り調査（中山町有志とともに）
- 山形県中山町岡地区の歴史民俗生活文化に関する聞き取り調査（中山町有志とともに）
- 山形県中山町岡地区の旧家文書調査依頼への対応
- NHK番組「美の壺」担当ディレクターからの問い合わせへの対応
- 山形商工会議所『商工月報』連載企画（長谷川家関係）への協力（資料提供・アドバイスなど）
- 山形県河北町旧家関係者からの歴史資料の相談への対応
- 山形県鶴岡市湯田川神楽保存会からの調査依頼への対応（鳥刺舞詞章など）
- 奥羽史料調査会世話人（2002年～）
- 宮城県村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（2013年12月～）
- 宮城県村田町大沼正七家文書目録整理員（2016年4月～）
- 宮城県村田町大沼家住宅の国指定に向けた協力依頼への対応（資料提供など）
- 宮城県村田町の旧家からの古文書解読依頼への対応

- 宮城県柴田町の旧家からの古文書保存・調査依頼への対応
- 宮城県大河原町の旧家からの古文書保存・調査依頼への対応
- 新潟県新潟市の旧家からの古文書調査依頼への対応

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究及び地域連携活動では、科研費採択も受けて継続している奥州仙台藩領村田商人に関する研究成果の続編を刊行できた。また、依頼があった宮城県柴田町及び大河原町の旧家の古文書資料の保存整理・調査を村田町歴史みらい館スタッフとともに開始した。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された村田町「蔵の町並み」の住民の方々との交流もさらに深め、ナショナルトラスト職員による村田町並みワークショップにも住民有志とともに参加できた。2017年4月に山形県中山町へ寄贈された柏倉九左衛門住宅・柏倉惣右衛門住宅や両家文化財の保存活用をはかる諸委員会委員を同町から委嘱され諸活動を展開した。柏倉家一類などの豪農屋敷群が存在する岡地区の黒堀の町並みの保存活用も課題となりつつあるが岡地区住民の歴史認識の向上に努めるべく、中山町有志と連携しゼミナール活動も基盤として様々な調査と研究発表会を活発に実施できた。この結果、岡地区住民の方々との関係が深まったことが特筆される。そのほか、山形商工会議所から要請されて『商工月報』連載企画への協力を開始した。大阪府八尾市から依頼されて山形商人と河内木綿に関する調査研究を進め講演と論文発表をおこなったことも研究テーマの新たな開拓に結果した。中山町出身の俳優と山形市の劇団による朗読劇は柏倉家など中山町の地域史を題材とするもので、依頼されて台本の基礎調査へのアドバイスと解説の執筆をおこなった。こうした演劇人の活動は地域活性化に向けた活動を多彩かつ多角的にする意義を持つ。今後も協力していきたいと考えている。

教育活動では、3名の大学院生の指導教員（副）として大学院授業を担当し、1名の修士学位論文審査（副）を務めた。学部の日本経済史ゼミでは中山町の岡村文書の調査研究を進めた。ゼミ共同研究論文の内容を年度末に岡地区で発表し地元住民の方々と議論し交流できた。ゼミ生は柏倉家ひなまつりボランティアに今年度も参加し実行委員会メンバーや観覧者と交流する経験を積んだ。

委員会活動では、学部改組で設置された経済・マネジメントコースの代表を務め、コース運営の諸雑務を担うとともに、とくに採用・昇任の諸人事に時間を費やした。また、目標評価委員会委員として入試方法検討・研究活動推進の各部会に参加し、とくに改組にともなう新入試の円滑な実施のために三重大学ヒアリングなど全国大学の入試実態の調査をおこなうなどの活動をおこなった。

**大久保 清朗**

(1) 研究成果（著書）

アンドレ・バザン研究会『アンドレ・バザン研究』第2号、山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所（代表）。

(2) 研究成果（論文）

- 論文「原爆とメロドラマ——『原爆の子』、『忘れえぬ慕情』、『二十四時間の情事』」、査読なし、『フランス文学』第31号、日本フランス語フランス文学会中国・四国支部、2017年、34-43頁。

- 論文「女たちの闇の奥——」査読なし, 『ユリイカ』2018年3月号, 2018年2月, 177-185頁.
- 解題「フランソワ・トリュフォー「アベル・ガンス卿」記者解題」(翻訳含む), 『アンドレ・バザン研究』第2号, 2017年, 138-145頁
- 解題「アベル・ガンス, 無秩序と天才」記者解題」(翻訳含む), 『アンドレ・バザン研究』第2号, 2017年, 146-160頁.

(3) 研究成果(学会発表)

- 報告「検討会:『アンドレ・バザン研究』第1号」, 京都大学吉田南総合館南棟334演習室にて(2017年6月6日).
- 講演「葛藤する音響——成瀬巳喜男の映画における音の主題について」, シネテカ・ナショナル(メキシコ, メキシコシティ)にて(2017年7月25日).

(4) 研究成果(その他)

- 科研費基盤B「アンドレ・バザン研究の批評の総合的再検討」(期間5年間の1年目)代表.

(5) 教育, 地域連携等の活動

- 基盤科目にて「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」を担当(人文社会科学部人間文化・GSコースおよび医学部)
- 専門科目にて「映像学講義」「映像学演習」「フランス語学演習」を担当
- 卒業論文として6名の学生を担当(テーマはレニ・リーフェンシュタール, ビクトル・エリセ, ダイレクト・シネマ期のアメリカの音楽ドキュメンタリー映画など)
- 人文社会科学部附属映像文化研究所副所長および映画部門部門長, 同研究所内アンドレ・バザン研究会代表
- 人文社会科学部人間文化およびグローバルスタディーズコースの教務副委員長(1年任期)
- 人文社会科学部人間文化コース文化解釈学プログラム教務委員(1年任期)
- 人事選考委員会(合田陽祐先生准教授昇任人事)
- 人事選考委員会(撰津隆信先生准教授昇任人事)
- 第1回「アンドレ・バザン研究」研究会開催, 青山学院大学にて(2017年8月5日)
- 宮城県泉高等学校における出張講義(2017年5月30日)
- 福島県立安積黎明高等学校(2017年11月8日)
- 福島県立船引高等学校(2017年12月13日)
- コラム「『クリスマス・キャロル』」, 『山形新聞』2017年5月7日
- コラム「『チキチキ・バンバン』」, 『山形新聞』2017年6月18日
- コラム「『雨に唄えば』」, 『山形新聞』, 2017年7月30日
- コラム「『メリー・ポピンズ』」, 『山形新聞』, 2017年9月10日
- コラム「『コルドロン』」, 『山形新聞』, 2017年10月22日
- コラム「『E.T.』」, 『山形新聞』, 2017年12月3日
- コラム「『私をスキーに連れてって』」, 『山形新聞』, 2018年1月21日
- コラム「『ジョルスン物語』」, 『山形新聞』, 2018年3月4日
- レビュー「『ありがとう, トニ・エルドマン』」, 『朝日新聞グローブ』2017年7月2日
- レビュー「『ポルト』」, 『朝日新聞グローブ』2017年10月1日

・レビュー「凶暴さと可憐さに彩られた崇高な家族劇『汚れたダイヤモンド』」, 『キネマ旬報』  
2017年9月下旬号

・レビュー「視線と死の遊戯——『ハッピーエンド』」, 『キネマ旬報』2018年3月下旬号

(6) 研究・教育活動に関するコメント

2016年に立ち上げたアンドレ・バザン研究会の成果である会誌『アンドレ・バザン研究』が2017年に実質上出来上がったことは、研究会代表としてさまざまな苦勞を重ねただけに感慨深いものがあつた。卒論を担当した6名のうち2名が過年度生だったが、諦めずに卒業できたことを嬉しく思った。事実上教務副委員長という大役を無事に勤め上げることができるかが不安であつたが、渡辺文生先生を含め多くの方に支えられ終えることができた。山形大学に着任し6年半が経過した。研究面でより成果を出していきたいと思う。

大杉 尚之

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

1. [共著論文] Osugi, T., & Kawahara, J. (2017). Effects of head nodding and shaking motions on perceptions of likeability and approachability. *Perception*
2. [共著論文] 佐藤祐也・大杉尚之 (2017). 記述的規範と人数が歩行者の信号無視に及ぼす影響. 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 14, 55-64.
3. [共著論文] Osugi, T., & Murakami, I. (2017). A drastic change in background luminance or motion degrades the preview benefit. *Frontiers in Psychology, Perception Science*, 8, 1252.
4. [共著論文] Yamauchi, K., Osugi, T., & Murakami, I. (2017). Attentional capture to a singleton distractor degrades visual marking in visual search. *Frontiers in Psychology, Perception Science*, 8, 801.
5. [共著テクニカルレポート] Hayashi D., Iwasawa, H., Osugi, T., & Murakami, I. (2017) A superposition of moving and static stimuli appears to dilate in time when the moving stimulus is attended to. *Journal of Vision*

(3) 研究成果 (学会発表)

1. [共同発表] A superposition of moving and static stimuli appears to dilate in time when the moving stimulus is attended to. Daisuke Hayashi, Hiroki Iwasawa, Takayuki Osugi & Ikuya Murakami. Vision Sciences Society 17th annual meeting, St. Pete Beach, Florida, USA, (May, 2017).

(4) 研究成果 (その他)

1. [プレスリリース]「うなずき」が印象に与える効果を検証 - 好ましさと近づきやすさが4割上昇 - (北海道大学と共同発表)

(5) 教育、地域連携等の活動

[担当授業] 認知心理学概論, 認知心理学演習, 心理学特殊実験 A, 心理学情報処理演習, 心理学実験 (以上学部専門科目)

卒業論文

1. 血液型と性格のステレオタイプの関連について
2. 他者の存在と課題の性質が課題遂行に与える影響について－覚醒度に着目して－
3. 自己開示への抵抗感と親密性の関連
4. 環境的文脈依存効果に及ぼす項目手がかりについての検討
5. LGBT の受容度に関する研究
6. 単純接触と誘目度が好意度に及ぼす影響
7. 同調行動と作り笑いの関連について
8. 2人きょうだいの出生順位と性格における関係性
9. 皮膚感覚が対人認知・自己認知に及ぼす効果
10. 理想－現実自己のズレと自己変容に対する志向性の関連について
11. 印象評定におけるコンストラクトアクセシビリティの効果
12. ソーシャルサポートと自己開示がレジリエンスに与える影響
13. 記憶と音声現象の解釈
14. 瘦身願望および瘦身希求行動の規定要因－性差の比較－

#### 出張講義

1. 認知心理学：心と脳とコンピューター」（2017年6月14日 米沢中央高等学校）
2. 認知心理学：心のエラーを科学する（2017年8月11日 山形大学オープンキャンパス）

#### 科研費

若手研究（B），2017年04月～2019年3月，物体認識プロセスにおける視覚的注意の抑制機能の解明（研究代表者）

若手研究（B）における独立基盤形成支援（試行）2017年04月～2018年3月

(6) 研究・教育活動に関するコメント

#### 小笠原 奈菜

(1) 研究成果（著書）

消費者市民ネットとうほく編『先端消費者法問題研究—研究と実務の交錯』（民事法研究会，2018年3月）（共著）

「日本放送協会（NHK）の受信契約に関する諸問題」52頁以下，「外国為替証拠金取引（FX取引）におけるロスカット・ルールによる消費者保護」123頁以下の執筆を分担。

(2) 研究成果（論文）

金販法上の説明義務と信義則上の説明義務：大阪高裁平成27年12月10日判決を契機として」山形大学法政論叢68・69合併号29頁以下（2018年3月）

(3) 研究成果（学会発表）

「メーカー保証及び代理店保証の法的性質－売主の担保責任との関連性」ネットとうほく消費者被害事例ラボ，2017年7月（於 仙台弁護士会館）

「メーカー保証及び代理店保証の法的性質—消費者保護の観点から」国際取引法研究会，2017年12月（於 明治大学）

「信用情報機関への情報提供と不法行為の成否」消費者法判例研究会，2018年1月（於 早稲

田大学)

(4) 研究成果 (その他)

「消費者法情報」現代消費者法37号83頁以下 (2017年12月)

「書評—イェーリング『権利のための闘争』」法学セミナー757号巻頭 (2018年2月)

「信用情報機関への情報提供と不法行為の成否 (岡山簡判平29・3・1)」現代消費者法38号60頁以下 (2018年3月)

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・専門教育科目: 契約法入門, 民法総則・物権総論, 民法演習

(オムニバス方式) 総合講座Ⅱ (法律), 消費者法務実践 (プレPBL)

[地域連携]

消費者市民ネットとうほく理事, 検討委員

山形県消費生活審議会委員 (副委員長)

山形県公益認定等審議会委員

山形県個人情報保護運営審議会委員

山形県情報公開・提供の検証見直し第三者委員会委員

消費者市民ネットとうほく主催「ネットとうほく消費者被害事例ラボ」講師 (2017年7月) 山形県税理士会主催研究会講師 (2017年9月)

大学模擬授業 (山形中央高校) (2017年12月)

東北大学法科大学院「ジェンダーと法」ゲストスピーカー (2018年1月)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究については, 共著で書籍を出版することができた。最新の消費者問題について, 研究者と実務家 (弁護士) がチームとなり, 理論面・実務面から検討する書籍である。企画から執筆, 出版まで携わるのは初めてだったので, 良い経験になった。以前から執筆をしていたもののまとめられなかった論文も公表することができた。さらに, 口頭報告を3件行った。

地域連携について, 唯一の空白地帯である東北地方に適格消費者団体を設立し, 理事に就任した。特定適格消費者団体を目指し活動を続けるとともに, 地域の方々への消費者問題の理解を深めるための講演をすることができた。山形県の各種委員会委員の業務も行った。

教育について, 卒論執筆学年の演習担当学生13名を含め全体で22名で演習を行なった。13名の卒論指導をするためにかなりの時間がとられてしまった。平成30年度も10名の卒論を指導するため, 工夫が必要である。講義については, 法務実践科目である「消費者法務実践」のプレ開講を行なった。新カリキュラムの必修科目として, やる気に欠ける学生にも積極的に参加してもらえぬか不安が残るところである。

出産後2ヶ月で復帰し精神的に不安定なところに色々言われてさらに不安定になったりもしたが, 周囲に助けられ, 振り返ってみると充実した1年だった。

## 柿並 良佑

### (1) 研究成果（著書）

『〈つながり〉の現代思想 社会的紐帯をめぐる哲学・政治・精神分析』明石書店, 2018年3月（共著）.

### (2) 研究成果（論文）

「文学を語／騙るのは誰か？——ラクー＝ラバルト&ナンシーのミメシス論から」, 『Nord-Est』日本フランス語フランス文学会東北支部会報, 第10号, 2017年5月, 29-34頁.

### (3) 研究成果（学会発表）

「人間（オム）なきオマージュ——バタイユとナンシー, 思考の身振り」と力」, ジョルジュ・バタイユ生誕120年記念国際シンポジウム「神話・共同体・虚構——ジョルジュ・バタイユからジャン＝リュック・ナンシーへ」, 慶應義塾大学, 2017年4月23日.

「思考と動くもの, その身振り, その空間——アーレントとナンシーの間」, シンポジウム「哲学と政治——フランス・イタリア思想におけるアーレント」, アーレント研究会, 慶應義塾大学三田キャンパス, 2017年9月9日.

### (4) 研究成果（その他）

バタイユ・シンポジウム報告（石川学との連名）, 『REPRE』表象文化論学会ニューズレター第31号, 2017年11月. <http://www.repre.org/repre/vol31/topics/01/>

ジャン＝リュック・ナンシーのインタビュー映像・字幕翻訳を付す. <https://www.youtube.com/watch?v=roMH14548WQ&feature=youtu.be>

書評 「『存在と時間』という豊饒な書物に、読者を哲学することへと誘う——ニュースクール・フォー・ソーシャル・リサーチでの講義録」, 『図書新聞』第3332号, 2017年12月23日付.

対談「深淵の野獣の行方 柿並良佑氏との対談」, ヨハネス・グライナー『ロックミュージックのオカルト的背景——アレクスター・クロウリーと深淵からの獣の浮上』SAKS BOOKS, 2018年, 137-188頁.

発表報告「思考とその運動, その身振り, その空間——アーレントとナンシーの間」, 『Arendt Platz』アーレント研究会, 第3号, 2018年3月, 2-6頁.

### (5) 教育, 地域連携等の活動

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費・若手研究（B）「現代哲学における特異性概念の探究——ナンシー哲学研究から出発して」の最終年度の研究を遂行した.

## 金子 優子

### (1) 研究成果（著書）

『独自開発データによる公益法人改革の推移分析』山形大学人文社会科学部叢書11, ISBN978-4-907085-10-0 C3333, 平成29年12月

### (2) 研究成果（論文）

### (3) 研究成果（学会発表）

### (4) 研究成果（その他）

(5) 教育, 地域連携等の活動

担当科目:

行政学, 行政学演習, 公共政策とはなにか, 日本国憲法, スタートアップセミナー

審議会委員:

東根市情報公開・個人情報審査会委員, 村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、「公益法人を巡る改革が公益法人の活動に及ぼす影響の定量的分析・評価に関する研究」(平成25-28年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題番号: 25380277)の成果を取りまとめて山形大学人文社会科学部叢書として刊行した。

また、「公益法人, 社会福祉法人及び学校法人を巡る改革の定量的評価についての研究」(平成29-32年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題番号: 17K03672)の初年度の研究活動として

- ① 平成24年経済センサス活動調査と平成26年経済センサス基礎調査の調査票情報の利用申請を総務省統計局に対し行い, 両調査の調査票情報を入手した。
- ② 平成24年経済センサス活動調査の調査票と平成25年公益法人業務記録の個別データとの完全照合作業をPC上の関数処理により実施した。また, 平成26年経済センサス基礎調査の調査票と平成26年公益法人業務記録の個別データとの完全照合作業をPC上の関数処理により実施した。それぞれの作業でPC上の関数処理で照合できなかったデータについて目視で照合作業を行うとともに, 照合結果において公益法人が専門学校, 信用金庫等と誤って照合されていたデータの削除作業を行った。
- ③ 上記の完全照合データを用いて基本的な集計表を作成した。
- ④ 社会福祉法人名簿について, 従前の研究で作成した情報を平成26年時点の情報に更新するとともに, 地方公共団体によりばらばらの形式で用意されている名簿情報を同一の形式に整序する作業を行った。
- ⑤ 学校法人名簿について, 従前の研究で作成した情報を「学校法人情報検索システム」を利用して平成26年時点の情報に更新するとともに, データの整序作業を行った。

教育活動については, プレゼンテーションソフトや映像ソフトを利用することにより視覚に訴えた分かりやすい講義となるように努めた。また, 講義においては学生に発言の機会を多く与えて対話型の講義を行うように努め, 学生の能動的学習を推進した。

川村 一義

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

「国会審議の理論的基礎」『山形大学法政論叢』第68・69合併号, 2018年2月

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

[教育]

政治過程論 (前期) (後期), 公共政策学 (前期) (後期), 公共政策学演習, 総合講座 I, 公務員

対策セミナー，公共政策学特論Ⅰ，公共政策学特別演習

〔地域連携等〕

模擬講義（福島県立相馬高等学校）

- ・山形県尾花沢市総合戦略検証委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

## 北川 忠明

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

「第一次世界大戦期の石井菊次郎」、『広島法學』第41巻第3号，2018年1月，19-57頁。

「国際連盟外交と日仏外交における石井菊次郎」、『山形大学人文社会科学部研究年報』，第15号，2018年3月，1-35頁。

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育，地域連携等の活動

〈教育〉

基盤教育科目：『政治と人間』（2単位），『現代日本の政治と外交』（2単位）

専門科目：『政治理論』（4単位），『政治理論演習』（4単位），『専門基礎演習』（2単位）

大学院科目：『現代政治論特論』

〈地域連携〉

- ・山形県明るい選挙推進委員会委員

- ・長井市振興審議会会長，等。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

安達峰一郎に関係が深い石井菊次郎について，論稿をひとまずまとめることができた。

## 許 時嘉

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

〔学会発表〕歴史経験の反復と記憶の風化—日本人の目に映る台湾断髪運動を中心に，国際シンポジウム「文化の記憶—虚構の力」，2017年11月11日，愛知大学

(4) 研究成果（その他）

〔書評〕台湾人アイデンティティをめぐる言説空間のダイナミズムを明らかにする——「行為媒体の分節化」を主題として日本と台湾の戦前戦後の思想空間を往復しつつ分析，『図書新聞』3338号，5面，2018年2月10日

〔科研費〕平成29年度科研費・若手研究B，日本帝国主義の満洲経営と植民地統治との連動／背反に関する思想的研究，課題番号17K13341，平成29～31年

(5) 教育，地域連携等の活動

[担当授業] 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ (以上は基盤教育科目), 現代中国論, 比較文化論, アジア文化演習, 近現代中国文化概論, 中国文学講義, 日本語文化論入門, グローバルスタディーズ入門講義, 留学事前演習, 異文化間コミュニケーションⅠ (以上は学部専門科目), 東アジア近現代文化論特論Ⅰ・Ⅱ, 東アジア近現代文化論特別演習 (以上は大学院授業)

[卒論指導] 卒論1名

[出張講義] 山本学園高等学校/2017年9月21日

[出張講義] 新庄東高校/2017年9月26日

[学会運営] 第69回日本中国学会大会 (2017年10月6日～8日山形大学開催) 大会準備会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

### 清塚 邦彦

(1) 研究成果 (著書)

『フィクションの哲学 (改訂版)』勁草書房, 2017年6月24日

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

日本科学哲学会 評議員

東北哲学会委員

(5) 教育, 地域連携等の活動

(a) 担当授業

(基盤教育)

「哲学ってどんなこと? (哲学)」(前期).

(専門教育)

「哲学概論」(前期), 「論理学概論」(前期), 「応用倫理学概論」(前期), 「記号論」(後期), 「現代応用倫理」(後期), 「記号論演習」(後期).

卒論指導担当 正5名 副5名

(b) 講演会

・2018年3月9日 山形県臨床内科医会学術講演会 (山形国際ホテル), 演題「コミュニケーションの行為をめぐって: 言語哲学の視点から」.

(6) 研究・教育活動に関するコメント

### 小泉 有紀子

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

小泉有紀子, 柴崎朝美. 大学職員の英語力向上を考える～職員主導の英語協同学習実践事例～第43回全国英語教育学会鳥根研究大会. 鳥根大学.

(4) 研究成果 (その他)

Koizumi, Yukiko. Book Review: Handbook of Japanese Psycholinguistics (Handbook of Japanese Language and Linguistics, v.9), Mouton de Gruyter, Berlin, 2015, xlii+635pp. 山形大学人文社会科学部研究年報第15号 pp.105-118.

(5) 教育, 地域連携等の活動

担当授業

- 基盤共通教育: コミュニカティブ英語, 総合英語
- 学部専門教育: 実践英語 (一), 英語学演習, 言語学総合講義 (分担)
- 大学院: 心理言語学特論, 心理言語学特別演習

英語教育関連の地域連携活動

- 山形県高等学校教育研究会英語部会 村山支部研修会講演「ライティング教育に大切なことは何か〜日米大学授業実践例からのヒント」
- 山形県教育センター 「平成29年度 探究型学習推進講座Ⅱ〜教科等における探究型学習の授業づくり〜【英語】」講師
- 山形県英語教育研究会 東南村山地区 中学校高等学校英語弁論大会審査委員長
- 山形県英語教育研究会 東南置賜地区 中学校高等学校英語弁論大会審査委員長

(6) 研究・教育活動に関するコメント

本年度は学内業務に多くの時間を割く年であったが, 一方で, 大学院生との共同研究や, 英語教育関連の地域連携活動にて貴重な経験を得た。

**合田 陽祐**

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

合田陽祐「ジャリと風景の再構築——『昼と夜』における知覚と表象の関係を中心に——」, 『象徴主義と風景』所収, 坂巻康司 (編), 水声社, 2018年刊行予定。

(3) 研究成果 (学会発表)

合田陽祐「ジャリにおける象徴主義的風景」, 連続シンポジウム第一回「象徴主義と〈風景〉——ボードレールからプルーストまで——」, 於東北大学マルチメディア教育研究棟6階ホール, 2018年9月30日。

(4) 研究成果 (その他)

1. Notes et variantes sur l'Ubu sur la butte, Alfred Jarry, Œuvres complètes, t. V, Classiques Garnier, 2018, a paraître.

2. 合田陽祐「ブルデュー「以後」の展開——ジゼル・サピロ『文学社会学とは何か』」(書評), 週刊読書人, 2017年8月25日掲載 (第3204号)

(5) 教育, 地域連携等の活動

1. 全学のフランス語履修者を対象として, 柿並良佑講師と下記のフランス語暗唱コンクールを企画し, 実施した (平成29年度山形大学国際化推進事業支援プログラム採択)。

フランス語暗唱コンクール, 2017年12月13日 (水), 於基盤教育院1号館3階134教室。

2. パリ・ナンテール大学 (旧パリ第10大学) よりジュリアン・シュー氏を招聘し, 個人科研費の

課題に即して、人文社会科学部における以下の講演を企画し、司会を行った（平成29年度下半期国際事業化研究センター研究支援プロジェクト「海外からの講演者招へい助成事業」採択）。

ジュリアン・シュー「バル・エポックの国際文化——西欧のマスメディア、前衛芸術、大衆文化について（1880～1920年）」、於人社会科学部301教室、2018年1月19日。

3. 公益財団法人フランス語教育振興協会よりエッセイ寄稿の依頼を受け、以下の文章を執筆した。合田陽祐「山形大学と仏検——学生が共に学べる環境づくりを目指して」、『APEF 通信』、2018年4月19日号。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

1. 科研若手 (B) 「文芸誌から見るフランス象徴派の集団性に関する研究——グールモンとジャリを起点に」(2年目)。

2. ジュリアン・シュー氏の招聘事業では、「19世紀末のメディア的想像力」と題して、上記の講演を含めた3つの講演が行われ、それぞれの会で司会をつとめた。

「愛書趣味と小雑誌」、於東北大学大学院文学研究科3階中会議室、1月17日。

「カフェから文芸キャバレーまで——カルチエ・ラタンとモンマルトルのあいだ、文芸誌と風刺雑誌について」、於京都産業大学 Lib. コモンズ (図書館ホール)、1月21日。

とりわけ3つ目の講演は、関西シュルレアリスム研究会との共催で行い、京阪神の研究者たちと活発な議論を交わすことができた。

3. パリ・ナンテール大学との大学間協定に向けて、協議を重ねている(2018年6月締結の予定)。この協定が実現すれば、2019年の4月からパリ大学の学生の受け入れが始まり、山形大学の学生の派遣は2019年8月に開始される。現在、学術提携の一環として、シンポジウムの企画・立案も行っている。

4. 留学事前演習を履修する、フランス語圏への留学希望者への指導を行った(1年生4名、2年生3名)。2年生は3名全員が学内審査を通過し(モントリオール大学への学部留学1名、アンジェ大学への語学留学2名)、現在、留学先大学との書類手続きの最中である。留学事前演習を終えた3年生3名がモントリオール大学への語学留学を行い、予定通り3か月から半年の滞在を経て無事帰国した。

5. 2017年度の山形大学全学での仏検受験者が年間100名を突破した。上記『APEF』通信への寄稿依頼は、このことを受けたものである。今後も仏検や DELF 等、語学の資格取得の促進に力を注いでいく。

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

Kumiko Koens & Charles W. Mooney,

Security Interests in Book-Entry Securities in Japan: Should Japanese Law Embrace Perfection by Control Agreement and Security Interests in Securities Accounts?

University of Pennsylvania Journal of International Law, Vol.38, Number 3

761-829 (Spring2017)

「消費者法情報」『現代消費者法』35号（平成29年6月）

「消費者法情報」『現代消費者法』38号（平成30年3月）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

〔担当授業〕基盤教育基幹科目（共生を考える）、商法Ⅰ、商法Ⅱ、商法演習Ⅰ、国際取引マネジメント論（理工学研究科）

〔地域連携活動〕山形地方最低賃金審議会公益委員、山形県指定管理者選定委員会委員、寒河江市地域づくり推進委員会委員、放送大学講師

(6) 研究・教育活動に関するコメント

近時、大きな注目を集めている分散型台帳技術などの新しい技術が、証券振替制度や電子記録債権等の権利移転の仕組みにどのように活用されうるか、その際の法規整のあり方について、研究を進めている。日本、米国、英国を中心に、まずは文献の収集、分析を行っているところである。今後、関係当局、関係諸機関等へのヒアリング等を行う予定である。

またわが国の担保法に関する研究を、行っている。わが国の企業金融の実態をより正確に把握するため、金融機関、司法書士等に対し聞き取り調査を行っているところである。それとともに最先端の担保法と捉えられているアメリカ統一商法典、国連商取引委員会の担保取引モデル法、ユニドロアのケープタウン条約との比較、検討をしている。これまでの成果についての中間報告を含めたコンファレンスを、海外の研究者、実務家とともに2018年7月に開催する企画を立てている。

教育面では、恒例の愛知大学、立命館大学との合同ゼミ合宿を立命館大学くさつ・びわこキャンパスで実施し、事前学習を含め学習指導を行った。学生は、模擬裁判の原告として、訴状の作成、答弁書の作成、口頭弁論準備等に自主的、積極的に取り組むとともに、他大学の学生との合宿のための事前連絡、合同ゼミおよび自由時間における交流など、極めて有意義な経験をしたと思う。

## 是川 晴彦

(1) 研究活動

・受託研究：『国道347号通年通行による地域活性化効果の調査研究（平成29年度版）』（尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会 成果報告書 第4章および編集総括を担当）

(2) 教育、地域連携などの活動

〔担当授業〕

ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、公共経済学、ミクロ経済学演習、公共経済学特論、公共経済学特別演習

〔地域貢献活動など〕

・山形県（産業構造審議会委員、入札監視委員会委員長、指定管理者審査委員会の外部委員、県立病院に関する外部評価委員）・山形市（行財政改革推進懇話会座長、消費生活審議会会長）・天童市（天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員、天童市振興審議会委員）・寒河江市（さがえ未来創生戦略に係る外部有識者会議座長、振興審議会会長）・東北地方整備局入札監視委員

山形県長寿医療懇談会会長 ・きらやかマネジメントスクールの企画・運営および講義担当

(3) 平成29年度の研究・教育活動に関するコメント

科研費研究（中心市街地活性化に関する研究）では、愛知県田原市、広島県三原市などの中心市街地の事態調査を行った。街の核と軸の設定や大型店撤退後の跡地利用について興味深い調査結果を得ることができた。

やまがた地域社会研究所としては、研究所のメンバーの協力のもとで国道347号通年通行の調査研究や地域連携事業を実施することができた。

教育面では、講義資料を加筆修正し、効果的な予習・復習を受講生が行えるように心がけた。大学院教育では、正指導教員として大学院生の指導を行った。

今野 健一

(1) 研究成果（著書）

『歴史から読み解く日本国憲法〔第2版〕』（倉持孝司編）（2017.4.10）（分担執筆）〔\*版の変更に伴う加筆・修正〕

(2) 研究成果（論文）

「レイシヤル・プロファイリングと憲法」（単著）、阪口正二郎＝江島晶子＝只野雅人＝今野健一編集『浦田一郎先生古稀記念・憲法の思想と発展』（2017.8.30／信山社）pp.197-224.

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

・教育

専門科目：憲法Ⅱ・Ⅲ，憲法演習Ⅱ，総合講座Ⅱ（法律）

基盤科目：日本国憲法，基幹科目（共生を考える），教養科目

・地域連携等

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員，山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究については、科研費の成果の一部として上記業績（論文）をまとめることができた。大震災に関わる科研費課題のための被災地訪問にも引き続き注力した。教育面では、質問カードで学生の疑問をこまめに引き出し、それに詳細な書面を作成して応答することにより学生の理解促進と学習意欲の向上に努め、一定の手応えを得た。

坂本 直樹

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

東北学院大学非常勤講師（財政政策論）

東北文化学園大学非常勤講師（経済学概論）

東北自治研修所非常勤講師（自治体財政）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

2017年度は研究成果を出せることができなかったが、2018年度は現在取り組んでいる研究についての学会報告や論文投稿を行いたい。

#### 佐藤 清人

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

[担当授業科目]

（前期）基盤教育科目：総合英語，コミュニケーション英語（リスニング）／専門教育科目：英米文化論，欧米文化演習／大学院教育科目：現代外国語（英語）Ⅱ（後期）基盤教育科目：総合英語／専門科目：グローバルスタディーズ基礎講義，英米文学講読

[地域連携]

教員免許更新講習（平成29年8月3日）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

日系アメリカ人作家モニカ・ソネの『二世の娘』の日本語訳を進めている。

#### 柴田 聡

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

・菅野洋介，柴田聡（2018年）デザインマネジメントの日韓比較－製品デザインに関わる部門間調整に着目して－日本経営学会誌（accepted）

・Kwon, Y., Kanno, Y., Nam, K. Y., Shibata, S., & Chung, K. W. (2017). Organizational Conditions Supporting Design Function: South Korea in Reflection of Japan. The Design Journal, 20 (1), 87-107.

(3) 研究成果（学会発表）

・玉井由樹，遠藤憲子，柴田聡（2017年）. コミュニティライフサイクルのダイナミクス 日本ベンチャー学会 第20回全国大会 九州大学

・柴田聡，玉井由樹（2017年）. トリプルヘリックスの陥穽－利益相反するコミュニティアクターの問題 日本経営学会91回全国大会 岡山大学

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

(6) 研究・教育活動に関するコメント

**下平 裕之**

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

小峯敦・下平裕之「ベヴァリッジ『自由社会における完全雇用』のケインズの要素～テキストマイニングを加味した量的・質的分析～」『龍谷大学経済学部 Discussion Paper Series』No.17-01, 2017.

(3) 研究成果 (学会発表)

「新聞記事を対象とするテキストマイニングの手法と課題」第58回経済思想研究会 (2017年4月16日, 上越教育大学)

「ベヴァリッジ『自由社会における完全雇用』のテキストマイニング分析」第59回経済思想研究会 (2017年8月6日, 東北学院大学)

(4) 研究成果 (その他)

「第7次上山市振興計画ダイジェスト版の作成について」『平成29年度東北創生研究所年次報告書』

(5) 教育, 地域連携等の活動

• 教育活動

山形大学における担当授業:

[学部] 経済思想, 経済学史, 経済学史演習, 地域づくり特別演習, 公務員対策セミナー (論文指導)

[大学院] イギリス経済学史特論・特別研究

[基盤教育] Jリーグと地域社会, 最上川から山形を考える

非常勤: 放送大学 (客員教授), 羽陽短期大学 (経済学), 東北文教大学 (地域と観光)

• 地域連携活動

山形財務事務所財務モニター

山形大学まちづくり研究所・山形仙台圏交流研究会への参加

山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長

山形県職業能力開発審議会会長

山形県公共事業評価監視委員会委員

市民向け講演会 (山形市, 米沢市)

出張講義 (山形北高校)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費 (基盤研究 (B)) による「テキストマイニングによる経済学の大衆への普及のプロセス研究」というテーマで継続して研究を進め, 今年度は2回の研究会報告のほか, ディスカッションペーパーの形で成果を刊行した.

**尻無濱 芳崇**

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

尻無濱芳崇 (2017) 「管理会計知識の測定:項目反応理論の会計研究への応用」『山形大学紀要 (社会科学)』48 (1): 49-66.

尻無濱芳崇・木村太一・劉美玲・市原勇一 (2017) 「形成型尺度開発ガイドラインと管理会計研究への示唆」『一橋商学論叢』12 (2): 62-71.

尻無濱芳崇 (2017) 「介護事業の採算管理と経営者特性に関する研究: 社会福祉法人を対象とした質問票調査」『介護経営』11 (1).

尻無濱芳崇・市原勇一・澤邊紀生 (2018) 「原価計算システムと財務業績の関係に経営管理者の能力が与える影響: 社会福祉法人を対象とした定量的研究」『メルコ管理会計研究』10 (1): 75-94.

Morimitsu, T. and Y. Shirinashihama. (2017) Cost Manipulation in Japanese Defense Procurement Contracts: Focusing on Opportunistic Cost-Shifting. Melco Management Accounting Research Discussion Paper Series, MDP 2017007.

Okada, K., Y. Shirinashihama, and M. Kuroki. (2017) Inter-organizational Network Structures in Healthcare and Social Welfare Organizations. Melco Management Accounting Research Discussion Paper Series, MDP 2017010.

### (3) 研究成果 (学会発表)

尻無濱芳崇 「介護事業における管理会計の利用」メルコ学術振興財団 設立10周年記念国際シンポジウム, 2017年4月8日.

Morimitsu, T. and Y. Shirinashihama, Cost Manipulation in Japanese Defense Procurement Contracts: Focusing on Opportunistic Cost-Shifting. European Accounting Association 40th Annual Congress, 2017/ 5/10.

Ichihara, Y., Y. Shirinashihama and N. Sawabe. Do budgeting practices improve financial performance of SMEs in Japan? 第62回 京都管理会計研究会, 2017年10月12日.

Okada, K., M. Kuroki and Y. Shirinashihama. The Effect of Management Accounting for Collaboration between Healthcare and Social Welfare Service: Towards Construction of the Integrated Community Care System. 第62回 京都管理会計研究会, 2017年10月12日.

### (4) 研究成果 (その他)

2018年ヨーロッパ会計学会年次大会での報告に関して, メルコ学術振興財団: 2017年度第二次国際研究交流助成金391千円を獲得.

### (5) 教育, 地域連携等の活動

講義では公会計, 管理会計 (前期・後期) を担当した. 演習では管理会計演習とビジネス創業実践演習を担当した. ビジネス創業実践演習については, 2日目の学園祭が台風で中止になるという問題が発生したが, 材料等の処分により何とか赤字転落を免れた.

山形市の南沼原地区において, 高齢者の外出時移動手段に関するアンケート調査の分析を実施した. 山形市社協, 南沼原地域包括支援センター, 山形市役所, 地区社協, 町内会など関係機関が協力し, 昨年の9倍以上になる1,600件を超える回答を得て, 南沼原地区の交通課題を明らかにした. 2018年3月8日に行われた南沼原地域包括支援センターネットワーク連絡会で, 分析結果の報告を行い, 地域住民と意見交換をした.

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動についてはかなり充実した一年になった。教育面ではビジネス創業実践演習について解決すべき課題をいくつか発見した。翌年度は内容改善に取り組みたいと思う。

**杉野 誠**

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)

カーボンプライシングによる産業への短期的な影響：2011年国内産業連関表を用いた分析，環境経済政策学会2017年大会，2017年9月9日。

- (4) 研究成果 (その他)
- (5) 教育，地域連携等の活動

**担当授業**

環境経済学，医療経済学，専門基礎演習 (学部)，専門演習 (学部)，環境問題と経済学 (基盤共通教育)，企業課題解決型実践演習 a (モンテディオ山形)

**地域連携**

第2回 日中韓カーボンプライシング・フォーラムに日本のカーボンプライシングの専門家として出席し，研究報告および討論に参加した (平成29年12月21日～23日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

カーボンプライシングに関連する，環境研究総合推進費 (2-1707) (代表：有村俊秀) が採択され，分担者として，研究計画に基づいて研究を3年間進めていく。

都市経済学の研究に関連する科学研究費補助金 (代表：安藤朝夫) が採択され，分担者として，研究計画に基づいて研究を進めていく。

環境経済学演習では，2名の卒業論文と18名のゼミ論の指導を行った。

**鈴木 明宏**

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)

- The effect of gender composition on gender differences in dictator games (小川一仁・高橋広雅・竹本亨との共著) (投稿中)
- 金融教育と行動バイアスが金融行動と金融トラブルへの巻き込まれやすさに与える影響 — 金融リテラシー調査データを利用した分析 (高橋広雅・竹本亨との共著) (投稿中)

- (3) 研究成果 (学会発表)

数理社会学会 (2018年3月)

- (4) 研究成果 (その他)

- (5) 教育，地域連携等の活動

**[担当科目]**

- ゲーム理論，産業組織論，意思決定論演習，総合講座Ⅲ，スタートアップ・セミナー，基幹

科目（経済学）

[出張講義]

- ・山形県立谷地高等学校（2017.7.13）
- ・東北税理士会山形支部集中講座（2017.9.13）

[社会連携等]

- ・山形大学まちづくり研究所（山形大学認定研究所）メンバー

(6) 研究・教育活動に関するコメント

2017年度は前半、変更されたスタートアップ・セミナーや基幹科目への対応に苦勞させられ、後半については社会系3コースの入試委員長として気苦勞が多く、面倒な1年だった。2018年度は落ち着いて研究できる1年としたい。

**鈴木 亨**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

- ・鈴木亨（2017）「創造的逸脱表現を支える文法のしくみ－Think differentの周辺」, 津田塾大学言語文化研究所「英語の通時的及び共時的研究の会」, 津田塾大学, 2017年12月9日.

(4) 研究成果（その他）

- ・書評「英語学／言語学・今年のベスト3」, 『英語教育』10月増刊号, 80-81, 2017年10月.
- ・書評「『メンタル・コーパス』: 辞書+文法書モデルを反転させる」, 『英語教育』11月号, 90-91, 2017年11月.

(5) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当授業: 総合英語, コミュニカティブ英語, 英語学特殊講義, 日英対照言語学講義, 実践英語(二), 教職実践演習(英語), e-learning, 英語語法特論
- ・模擬講義: 「Think differentの言語学－創造か, 逸脱か?」(山形県立長井高等学校, 2017年11月8日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 逸脱表現を支える文法のメカニズムについての研究を進めた。教育面では, 多読レポートなど多面的な学習課題による英語力の養成に努めた。

**砂田 洋志**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

「SCDモデルの理論と実証－東京商品取引所における金先物取引への応用－」, 山形大学紀要(社会科学), 第48巻第2号, pp.41-63, 2018年2月.

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

「平成29年度 一般国道347号の通年通行に伴う経済効果に関する調査業務－尾花沢市・大石田

町広域連携推進協議会委託事業 成果報告書 一」, 2018年 3月, 共著.

(5) 教育, 地域連携等の活動

担当授業

計量経済学, 統計学, 演習 (学部), 基盤教育 (経済学)

地域連携

山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事として監事業務を行った.

山形県統計利用アドバイザーを任命されており, 必要に応じて相談に応じている.

山形地方労働審議会に同会の委員として参加した (平成29年11月, 平成30年 3月).

(6) 研究・教育活動に関するコメント

高頻度の金融データに関する研究を再開し, 論文を公刊することができた. 平成30年度は, モンテカルロフィルター等の手法を利用して高度なモデルを用いた実証分析をしたいと考えている.

## 摂津 隆信

(1) 研究成果 (著書)

『ドイツ語基礎単語帳』

(朝日出版社, 共著, 2018年 1月)

(2) 研究成果 (論文)

『テキストの演劇性と喜劇テキストの言語 —カール・ファレンティンのディアロック作品『よそのたち』—』(「東北ドイツ文学研究」, 東北ドイツ文学会, 第58号, 91-111頁, 2017年12月)

(3) 研究成果 (学会発表)

『「グロテスクな笑い」の再考察 —カール・ファレンティン『芝居見物』を例に—』(日本独文学会秋季研究発表会, 広島大学, 2017年 9月)

(4) 研究成果 (その他)

翻訳 『フレディ・M・ムーラー『山の焚火』をたずさえ, 日本の山人たちと出会う』(「共振する身体 フレディ・M・ムーラー特集」, 山形国際ドキュメンタリー映画祭2017プログラム, ソリレス書店, 45-46頁, 2017年10月)

(5) 教育, 地域連携等の活動

講演 『ドイツ語の「壁」を破るには —山形大学ドイツ語教室の取り組みを例に—』(東北大学高度教養教育・学生支援機構2017年度ドイツ語教育セミナー「ドイツ語教育とアクティブラーニング—どのような教材をどのように用いるか—」, 東北大学, 2018年 1月)

地域連携 『第10回山形大学高校生朗読コンクール』審査員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究・教育共に幅広い活動ができた. 現在科学研究費若手 B を取得しているので, 研究をさらに進めていきたい.

## 十川 陽一

(1) 研究成果 (著書)

単著:『天皇側近たちの奈良時代』吉川弘文館, 2017年 4月

共編著：出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著『概説日本法制史』弘文堂，2018年3月）  
共著：新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』勉誠出版，2018年1月（「律令官人制と古代の東北」を分担執筆）

蔵中しのぶ編『古代の文化圏とネットワーク』竹林舎，2017年11月（「律令官人制と交流・交易—ネットワーク形成過程の一断面—」を分担執筆）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

「古代における道路・橋の維持管理」古代交通研究会第19回大会（移動を支えた人と場・道）  
2017年6月25日

(4) 研究成果（その他）

「古代の最上」（『西村山地域史の研究』35,2017年9月）

「日本古代の側近—東アジアのなかで—」（『本郷』130,2017年7月）

(5) 教育，地域連携等の活動

「律令国家と官人たち」（科学研究費補助金（基盤研究（S））「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展」研究プロジェクト・一般社団法人長野高等学校金鷄会市民大学 続・古典を読む—歴史と文学—いま明かされる古代37,2017年10月21日）

「古代出羽国の地理と交通—大石田町駒籠橋をめぐって—」（山形大学都市・地域学研究所 公開講座 山形の魅力再発見プロジェクトパート15,2017年9月2日）

「歴史研究の楽しさ—古代の東北地方の研究から—」（河北郷土史研究会 河北の歴史と文化を探る，2017年7月9日）

「律令国家と古代東日本の人びと」（山形県立米沢興譲館高等学校，興譲館大学講座，2017年7月6日）

「平安京の郊外—3つのウジから—」（米沢女子短期大学，史学実習，2017年6月8日）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

今年度は，雑誌論文という形ではなく，書籍としての研究成果の公開が多くなった。また，地域における講演会といった形で研究成果を還元する機会に恵まれた。

## 十川 陽一

(1) 研究成果（著書）

単著：『天皇側近たちの奈良時代』吉川弘文館，2017年4月

共編著：出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著『概説日本法制史』弘文堂，2018年3月）

共著：新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』勉誠出版，2018年1月（「律令官人制と古代の東北」を分担執筆）

蔵中しのぶ編『古代の文化圏とネットワーク』竹林舎，2017年11月（「律令官人制と交流・交易—ネットワーク形成過程の一断面—」を分担執筆）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

「古代における道路・橋の維持管理」古代交通研究会第19回大会（移動を支えた人と場・道）

2017年 6月25日

(4) 研究成果 (その他)

「歴史研究の楽しさ～古代の東北地方の研究から」(『河北の歴史と文化』14, 2018年 3月)

「古代の最上」(『西村山地域史の研究』35, 2017年 9月)

「日本古代の側近—東アジアのなかで—」(『本郷』130, 2017年 7月)

(5) 教育, 地域連携等の活動

「律令国家と官人たち」(科学研究費補助金(基盤研究(S))「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展」研究プロジェクト・一般社団法人長野高等学校金鶏会市民大学統・古典を読む—歴史と文学—いま明かされる古代37, 2017年10月21日)

「古代出羽国の地理と交通—大石田町駒籠橋をめぐって—」(山形大学都市・地域学研究所 公開講座 山形の魅力再発見プロジェクトパート15, 2017年 9月 2日)

「歴史研究の楽しさ—古代の東北地方の研究から—」(河北郷土史研究会 河北の歴史と文化を探る, 2017年 7月 9日)

「律令国家と古代東日本の人びと」(山形県立米沢興譲館高等学校, 興譲館大学講座, 2017年 7月 6日)

「平安京の郊外—3つのウジから—」(米沢女子短期大学, 史学実習, 2017年 6月 8日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

今年度は, 雑誌論文という形ではなく, 書籍としての研究成果の公開が多かった。また, 地域における講演会ならびに講演録といった形で, 研究成果を社会に還元する機会に恵まれた。

## 高倉 新喜

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

・高倉新喜「最新判例演習室—憲法35条の令状主義と無令状で無承諾の行政手続『法学セミナー』748号(2017年)122頁

・高倉新喜「起訴後の余罪捜査と接見指定」『刑事訴訟法判例百選 [第10版]』(有斐閣, 2017年) 80-81頁

・高倉新喜「最新判例演習室—証拠の明白性(刑訴法435条6号)の判断方法」『法学セミナー』751号(2017年)122頁

・高倉新喜「最新判例演習室—判決への影響(刑訴法379条)の意味」『法学セミナー』754号(2017年)110頁

・高倉新喜「最新判例演習室—鑑定証言の中の推測事項の前提となる資料」『法学セミナー』757号(2018年)124頁

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

・第3回可視化実践経験交流会(日本弁護士連合会主催)でパネラーを務めた。

(5) 教育, 地域連携等の活動

・専門教育 → 刑事訴訟法, 刑事法基礎, 刑事訴訟法演習, 法と裁判,

総合講座Ⅱ（刑事訴訟法の部）、公務員対策セミナーの論作文指導

- 基盤教育 → 裁判員制度—刑事司法との共生を考える（基幹科目・共生を考える）
- 地域連携 → 山形県精神医療審査会委員  
山形県介護保険審査会委員  
山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員  
山形少年鑑別所視察委員会委員  
山形県弁護士会綱紀委員会予備委員  
山形県教職員法令遵守委員会委員長  
山形放送（YBC）に取材協力（テロ等準備罪について）  
北海道新聞に取材協力（留置施設で意識不明になった被疑者に関する刑事手続について）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては、法学セミナーの「最新判例演習室—刑事訴訟法」の執筆を継続した。また、第3回可視化実践経験交流会（日本弁護士連合会主催）でパネラーを務めた。教育活動においては、刑事訴訟法演習での現地学習として山形少年鑑別所の見学を実施した。

## 高橋 和

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

「日本の移民政策と外国人介護労働者の受け入れ—EPA協定で介護労働者は確保されるのか—」  
山形大学『法政論叢』第68・69合併号、2018年2月、1-28頁

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

Japan's Immigration Policy and the EPA between the Philippines and Japan, 『山形大学人文社会科学部研究年報』第15号、平成30年3月、pp.161-170.

(5) 教育、地域連携等の活動

教育 専門科目：国際関係論、国際公共政策、地域の国際化、国際関係論演習、専門基礎演習、国際関係論特論Ⅰ、Ⅱ（大学院）を担当した。

地域連携 国道347号に関する調査研究への参加

審議会等の委員：山形地方労働政策審議会委員（会長）

山形最低賃金審議会公益委員

山形県行政改革推進委員会委員（会長）

山形県障がい者施策推進協議会学識委員

山形県高齢者障害者虐待防止県民会議委員

山形県精神保健医療審査会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

教育では、学生の授業への主体的な参加を促すために、クリッカーやロールプレイを利用して、双方向の授業を試みている。

研究では、昨年度のフィリピンのサンカルロス大学における共同研究をベースに論文を執筆した。地域統合に関する研究では、'Subregionalism between EU and Russia,' をRoutledge に入稿済みで、出版を待っているところである。

### 高橋 真彦

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

Takahashi, Masahiko. 2017. Review of Japanese syntax in comparative perspective. *English Linguistics* 34: 138-149.

Takahashi, Masahiko. 2017. On the pseudo-small clause construction in Japanese: New evidence for A-movement out of a CP and its theoretical implications. *Glossa* 2 ( 1), p. 44. <http://doi.org/10.5334/gigl.92>

Takahashi, Masahiko. 2018. On the optionality of raising in the Japanese ECM construction. *Nanzan Linguistics* 13: 59-80.

(3) 研究成果 (学会発表)

Takahashi, Masahiko. 2017. On the optionality of raising in the Japanese ECM construction. The 2nd Workshop of the NINJAL Collaborative Research Project (Generative Perspectives on the Syntax and Acquisition of Japanese). National Institute for Japanese Language and Linguistics (招待有り).

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

英語 (R)・英語 (C), 実践英語 (三), 総合英語, 言語学総合講義, 言語学演習

(6) 研究・教育活動に関するコメント

### 高橋 良彰

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

(6) 研究・教育活動に関するコメント

成果といえるものはなかったが、この時期の研究・執筆活動は、2018年5月発行予定の『市民社会と市民法』に寄稿した論文に費やした。これまでのボアソナード民法典の研究を総括するための論文になると考えている。また、教育地域連携についても取り立てて成果といえるものはなかったが、安達峰一郎関係のホームページ用にコラムを書くことを依頼され、作成した。これもボアソナード関係の仕事だが、公表は次年度となるようである。この他、日本司法書士会連合会の依頼で、『日本司法書士史』の続編の編纂に協力してもらいたいとの申し出があり、まずオブザーバーとして協力することとなった。客員委員となると数年はそれにかかりきりになることになるが、前任の先生が学生時代からお世話になった先生でもあり、引き受けることになろう。その間

の業績は散々なものになるだろうが、仕方がないと観念している。

#### 田北 俊昭

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

The Patriot Effect and National Branding of Regional Agricultural Goods

(査読付き) The 57th Congress Paper of ERS, Referee Session, 2018.8

Information Value and Interregional Input-Output Structure,

(査読付き) Proceedings of The Asia-Pacific Conference of ITS, 2018.6

(3) 研究成果 (学会発表)

The Patriot Effect and National Branding of Regional Agricultural Goods, 応用地域学会, 2018.12

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

2018年2月 米沢藩上杉家の伝統文化を致した地域ブランド戦略を学ぶとともに, 山形を考える「観光学と地域ブランド」の授業の仕上げとして, 伝国の杜(米沢市上杉博物館・座の文化伝承館・上杉伯爵邸)では, 上杉博物館および上杉伯爵邸, 芸能文化では吉本興業関係者, 南陽市商工会観光協会関係者, 山形大学・東北大学関係者と学生参加型の産学連携セミナーを実施。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

地域ブランドに関する国際貿易モデルについて, 東北大学と共同研究をしている。教育においては, 中国からの研究生2名(2018年4月山形大学大学院進学予定)についての教育を実施している。

#### 竹内 麻貴

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(査読付き)

2018, 「現代日本における Motherhood Penalty の検証」『フォーラム現代社会学』17: 93-107.

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

[報告]

「日本における Motherhood Penalty 研究の現在地」, 東北大学 社会にインパクトある研究 ランチセミナー, 2018年11月6日, 東北大学.

[外部資金]

「政府統計とサーベイ実験を用いたケアペナルティの検証」科学研究費助成事業 若手研究 (研究課題番号 18K12918), 研究代表者, 2018年4月1日~2022年3月31日.

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

社会学演習, 社会調査法基礎, 専門基礎演習, 地域社会学, 調査方法論, 公共政策・地域課題実

実践演習 A4, 卒業論文 (6名)

[模擬講義]

「三世同居は家族を救うか」山形大学オープンキャンパス2018年8月4日, 山形大学.

[地域連携]

山形市仕事の検証システム 外部検証委員, 2019年1月～.

(6) 研究・教育活動に関するコメント

溜川 健一

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)
- (5) 教育, 地域連携等の活動

[教育]

マクロ経済学, マクロ経済学演習, 応用マクロ経済学, 経済数学 (前期), スタートアップセミナー

[地域連携]

出張講義: 山形西高校

山形県経済動向研究会への参加 (平成29年 8月と平成30年 2月)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

次年度も仕事を全うできるよう頑張りたい.

富澤 直人

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)
- (5) 教育, 地域連携等の活動

- 基盤共通教育: 総合英語, スタートアップセミナー
- 学部専門教育: 英語学概論, 英語学特殊講義, 言語学総合講義, 実践英語
- 卒論 (日本語学) (副指導 1)
- 大学説明会 (3会場), 高校訪問 (2校), コース説明会 (オープンキャンパス)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

- 科研費 (基盤研究 (C)) 「派生語の演算子移動分析とその帰結」の研究を継続.

富田 かおる

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)

Voice Onset Time of Native- and Nonnative- English Speakers: A Case Study of Bengali Speakers,

Proceedings of 24th International Congress on Sound and Vibration, 23-27 July, London.

Phonological and Phonetic Contrasts on Vowel Qualities, Bulletin of Yamagata University (Humanities) 19:1, 31-57.

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

担当授業 言語学特殊講義, 英語学演習, 英語の教材分析 A, 総合英語, コミュニカティブ英語

(6) 研究・教育活動に関するコメント

## 戸室 健作

(1) 研究成果 (著書)

・日本の子どもを守る会編『子ども白書2017』本の泉社, 2017年8月15日

戸室担当:「都道府県別の子どもの貧困率の動向」106-107頁.

(2) 研究成果 (論文)

・「拡大する子育て貧困世帯」『現代思想』45巻7号 (2017年4月号), 2017年4月1日, 210-218頁

(3) 研究成果 (学会発表)

・「地域別に見る子育て世帯の貧困実態と要因」(社会政策政策学会ジェンダー部会主催研究会: 明星大学), 2017年6月2日

・「都道府県別の子育て世帯の貧困と要因」(社会政策学会第135回大会: 愛知学院大学), 2017年10月28日

(4) 研究成果 (その他)

・「論点・社会福祉 わが国の子どもの貧困問題」『月刊福祉』100巻4号, 2017年4月1日, 54-55頁

・「子どもの貧困, 克服のために」『子どものための学校事務』136号, 2017年6月22日, 26-35頁.

・法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑 第87集 /2017年版』旬報社, 2017年6月26日

戸室担当:「経営労務の動向」171-182頁.

・「労働組合と協同組合をとりまく社会」『寄付講座講義録2016』日本労働組合総連合会山形県連合会, 2017年, 103-111頁

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

・専門教育科目: 社会政策論, 社会保障論, 労働と生活, 社会政策論演習, 卒業論文指導, 総合講座 I (オムニバス 1 回担当)

・基盤教育: 社会政策論入門

・東北学院大学非常勤講師: 労働経済論 I, 労働経済論 II

[委員会活動等]

・小白川キャンパスキャリアサポートセンター連絡会委員

・人文社会科学部公務員対策講座実施委員

- 人文社会科学部進路指導委員
- 山形大学紀要（社会科学）編集委員

[学会活動]

- 社会政策学会幹事（ニューズレター担当）
- 社会政策学会秋季大会企画委員

[地域連携等]

- 社会福祉法人山形県社会福祉協議会評議員
- 山形県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員
- 連合山形寄付講座「労働と生活」担当
- 記事「In Japan, a 'lost generation' of poor children」『THE WASHINGTON POST』2017年5月29日、A 8面
- 記事「治療費払えぬ「限界層」」『毎日新聞』2017年6月30日、19面
- 記事「給付奨学金枠 地域差5倍」『毎日新聞』2017年8月2日、1面
- 講演「拡大する貧困の現状と対策」青森県社会保障推進協議会第21回定期総会記念講演（2017年7月29日13:30-15:20. 青森国際ホテル）
- 講演「現在の貧困問題について」社会保障制度を良くする鶴岡・田川の会主催（2017年8月18日18:30-20:30. 出羽庄内国際村ホール）
- シンポジウム「親の子育て、就業と貧困問題—社会的保護の展望—」沖縄大学地域研究所主催（2017年9月9日14:00-17:00. 沖縄大学アネックス共創館. 戸室は基調講演「全国貧困率の結果と沖縄の位置づけ」（14:15-14:45）を行い、その後の討論に参加する）
- 講演「拡大する貧困の実態と対策」宮城県立泉高等学校への出張講義（2017年9月20日13:45-15:30）
- シンポジウム「若者、現役は高齢者に何を思うか？ 高齢期運動の飛躍と世代間連帯をめざして」第28回東京高齢者のつどい第3分科会（2017年9月22日10:00-12:30. 東京土建杉並支部ホール. 戸室は報告「若者・現役の抱える問題—労働問題を中心に—」（10:05-10:45）を行い、その後の討論に参加する）
- 記事「沖大講座 親の子育て、就業と貧困問題 上」『琉球新報』2017年9月18日、19面
- 記事「沖大講座 親の子育て、就業と貧困問題 下」『琉球新報』2017年9月19日、24面

(6) 研究・教育活動に関するコメント

10月の社会政策学会第135回大会で報告したが、その準備過程や報告に対するコメントから、今後の研究につながるヒントを得ることができた。

教育においては、今年も、福島大学等と行っている社会政策関係の合同合宿に戸室ゼミは参加した。今回、戸室ゼミは、障害者の就労支援について報告した。この日のために、ゼミ生たちは手分けしてインタビュー調査を積み重ねてきた。その甲斐あって、ゼミ生の底力を感じさせる報告内容であった。

## 中澤 信幸

### (1) 研究成果（著書）

- ・ティモシー・J・バンス 金子恵美子 渡邊靖史編（共著）『連濁の研究 ―国立国語研究所プロジェクト論文選集―』（開拓社）、「第9章 日本語学習者による連濁意識と獲得」（pp.199-215）を担当，2017年11月

### (2) 研究成果（論文）

- ・台湾語母語話者と日本漢字音，『天理臺灣學報』26（天理台湾学会），pp.93-112,2017年7月

### (3) 研究成果（学会発表）

- ・東方孝義編『台日新辞書』所収語彙の特徴，中澤信幸 岩城裕之（共同で口頭発表），天理台湾学会第27回研究大会，2017年7月1日
- ・東方孝義『台日新辞書』の語釈に見られる日本語，中澤信幸 岩城裕之 加藤大鶴 是澤範三 酒井亨（共同でブース発表），日本語学会2017年度秋季大会，2017年11月12日

### (4) 研究成果（その他）

### (5) 教育，地域連携等の活動

#### 〔担当授業〕

- ・学部専門科目：日本語（一），日本語学概論，日本語学特殊講義，日本語学演習，日本語学講読，近現代東アジア地域論（一），言語学総合講義，人間文化入門総合講義
- ・大学院科目：日本語史特論Ⅱ，日本語史特別演習
- ・基盤教育科目：日本語と他言語共生社会（共生を考える）

#### 〔卒業論文〕

- ・人称代名詞と文末表現が与える日本語の印象について
- ・日本語とドイツ語の語用論的規範
- ・近現代オノマトペの一義性と多義性について
- ・東北地域の若者の方言意識

#### 〔修士論文〕

- ・字音形態素「気」を含む複合語に関する研究 ―日中文学作品を中心に―

#### 〔地域連携〕

- ・伝統の創造の視点から見る祭り ―日台政策研究所設立記念シンポジウム―，台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター，2018年2月3日（主催者として開催に携わる）

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

前年度に引き続き，科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金，基盤研究（C）（一般），研究課題名：多言語併存状況下における台湾語の現状と変容，課題番号：15K02501，研究期間：平成27～29年度，研究代表者：中澤信幸）による研究活動を行った。また「日台政策研究所」の設立に携わり，台湾文化センターにてシンポジウムを開催した。

教育面では，前年度に引き続き「日本語学演習」で方言に関するPBL授業を実施し，河北町へ学生を引率して方言調査を行った。

## 中島 宏

### (1) 研究成果 (著書)

### (2) 研究成果 (論文)

- 「フランスにおけるブルカ・スカーフ・ブルキニ規制に関する一考察」浦田一郎先生古稀記念『憲法思想と発展』(信山社, 2017年8月) 361~383頁
- The ban on face covering and the religious liberty in France, 山形大学人文社会科学部研究年報15号 (2018年3月) 185~190頁

### (3) 研究成果 (学会発表)

- Le principe de laïcité dans la Constitution japonaise, XIIème Séminaire Franco-Japonais de droit public Opinions publiques fluctuantes et institutions démocratiques contemporaines, 15-17 mars 2018, Hiroshima University, Japan

### (4) 研究成果 (その他)

- 判例研究: 「夫婦同氏制の合憲性」国際人権28号 (信山社, 2017年10月) 89~93頁
- 実践報告: 「続・教養科目『日本国憲法』の実践例と課題について」山形大学高等教育研究年報12号 (2018年3月公刊予定)

### (5) 教育, 地域連携等の活動

#### [教育]

- 基盤: 日本国憲法
- 専門: 憲法 I, 比較憲法, 憲法演習 I, 公務員対策セミナー
- 表彰: 平成29年度基盤教育ベストティーチャー賞・特別ベストティーチャー賞, 平成29年度山形大学学生表彰に模擬裁判実行委員会を推薦 (優秀活動賞)

#### [地域連携]

- 審議会: ①山形市個人情報保護制度運営審議会 (副会長), ②天童市情報公開・個人情報保護審査会, ③山形県後期高齢者医療広域連合個人情報保護制度運営審議会
- 講演: ①山形県要約筆記者養成講座 (7月16日, 山形県社会福祉研修センター), ②南陽市9条の会学習会 (8月19日, 南陽市赤湯公民館えくぼプラザ), ③講座憲法のきほん vol.7前文の意味とは? (9月4日, 東京都千代田区アーツ千代田3331), ④立憲デモクラシーの会やまがた講演会 (11月22日, 遊学館)
- 出張講義: ①山形県立米沢興譲館高校 (7月6日), ②山形県立高島高校 (10月11日), ②岩手県立大船渡高校 (10月19日)
- アカデミックキャンプ: 企画運営 (8月8・9日)
- 取材協力: ①岩手日報10月20日「復興導く1票『18歳選挙権』学ぶ 大船渡高が一日大学」, ②山形新聞11月19日「自民改憲案を考える」, ③朝日新聞11月27日「自民改憲案とは」, ④朝日新聞12月24日「根ほり葉ほり 山大裁判劇45年 学生が担う意義は」

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

今年度も様々な仕事を行うことができた。特に目標評価委員会の業務が多忙であったが、一定の成果を得た。日仏公法セミナーにおける口頭報告、4年連続のBT賞拝受、模擬裁判実行委員会の観客動員数歴代最多および学生表彰拝受は、喜ばしい成果であった。感謝申し上げたい。

## 中村 篤志

### (1) 研究成果（著書）

### (2) 研究成果（論文）

- 単著「清朝治下ハルハ＝モンゴル社会における人の移動と駅」『北東アジア研究』別冊第4号（掲載予定）

### (3) 研究成果（学会発表）

#### [国際会議]

- 中村篤志「清朝時期喀爾喀蒙古の人員流動探析」国際学術研討会「清朝政治発展変遷研究」（2017年6月18日，中国・上海・復旦大学）
- 中村篤志「清朝治下モンゴル社会における人の移動と駅」鳥根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト第2回国際シンポジウム「北東アジア：胎動期の諸相」（2017年9月20日，中国・長春・東北師範大学）

#### [国内学会]

- 中村篤志「藤田嗣治の描いた「蒙古人」力士をめぐる」第54回 野尻湖クリルタイ（日本アルタイ学会）（2017年7月15日，長野県・藤屋旅館）

### (4) 研究成果（その他）

### (5) 教育，地域連携等の活動

#### [地域連携]

- 平成29年度山形大学公開講座（人文社会科学部）「都市と社会：歴史・景観・表象」の第五回講師を担当し、「モンゴル遊牧民と都市：カラコルムからウランバートルへ」と題する講演を行った。

#### [担当授業]

- 学部主担当：文化動態論（アジア），アジア史講義（二），アジア史演習（二）前・後期，アジア史史料講読（二），基盤「モンゴル遊牧民の歴史（歴史学）」（工学部フレックスコース）
- 学部分担担当：近現代東アジア地域論（一），人間文化入門総合講義
- 大学院：北アジア史特論Ⅱ，北アジア史特別演習

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

- 研究面では，科研費・基盤Cのほか，国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）に採択され，来年度から始まる長期海外調査に向けて準備を始めた。
- 海外では，2度の国際学会での発表や史料調査（モンゴル国）を行い，その成果を論文にまとめることができた。
- 平成29年度山形大学研究推進報奨を頂いた。
- 人間文化コースの将来計画委員のほか，学部・大学院の各種委員会に尽力した。
- 今年度より新モンゴル学園の国際交流コーディネーターになり，学園理事長らと面談を重ね交流促進に尽力した。

## 中村 文子

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)

書評「五十嵐元道著『支配する人道主義—植民地統治から平和構築まで』(岩波書店, 2016年)」  
南山大学社会倫理研究所編『社会と倫理』第32号, 133-138頁, 2017年11月.

- (5) 教育, 地域連携等の活動

[受賞]

平成29年度 東北大学総長教育賞受賞(全学教育科目「ジェンダーと人間社会」関係教員として)  
2017年3月.

[非常勤]

東北大学全学教育「ジェンダーと人間社会」担当

福島大学行政政策学類「国際関係論II」担当

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

2017年10月着任.

教育では, 2015年度からオムニバス形式で担当してきた東北大学全学教育科目「ジェンダーと人間社会」が, 平成29年度 東北大学総長教育賞を受賞することができた.

研究では, 3月に在バンコクの国際連合事務所と NGO での調査および米国スタンフォード大学と関連 NGO での共同研究打ち合わせおよび調査を実施した.

## 中村 隆

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)

参考業績: 書評

「Paul Jarvie, Ready to Trample on All Human Law について」(『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第40号, 2017, pp.34-39)

- (3) 研究成果 (学会発表)

「ディケンズにおける感傷主義の文体解析—涙と子供」(「ヴィクトリア朝研究会」2017年10月8日, 於: 上智大学)

- (4) 研究成果 (その他)

科研の課題研究(課題番号: 16K02440, 研究科題名: 「ディケンズの文学と子供の表象」: センチメンタリズムの構造分析)に沿って, ディケンズの全長編16作品の文体的特色を「子供(child, children, childish)と「涙」(tear)の2点に絞り, 作品ごとのこの2語の頻度傾向を解析した. 子供の頻度を「子供係数 = coefficient of child」とし, 涙の頻度を「涙係数 = coefficient of tear」とし, さらに, 子供係数と涙係数を掛け合わせた数値の平方根を「感傷係数 = coefficient of pathos」と名づけ, 各作品におけるこれら3つの係数を算出した.

結果判明したのは, 感傷係数の上位3位をあげると, 第1位は, Old Curiosity Shop (1840-41,

感傷係数=101.17), 第2位は, Dombey and Son (1846-48, 感傷係数=73.96), 第3位は, Oliver Twist (1837-39, 感傷係数=63.64) である。これら3作品は従来のディケンズ批評で, 感傷的 (pathetic) ないしは「お涙頂戴」(tear jerking) とされてきたものであり, このいわゆる主観的な批評が, 厳密な数値で裏付けられたことを意味する。いうまでもなく, これら3作品の中核に位置するのは「子供」である。すなわち, ディケンズは子供をいわば感傷の触媒として, 利用していたことが文体解析の観点より確かめることができる。なお, 「涙」の主体は誰かというもう一つの問題点についてはさらなる詳細なパッセージ分析が必要であるが, 涙を流す主体のおよそ半分は女性で, 残りの半分は子供であるとの証拠はつかみつつある。

#### (5) 教育, 地域連携等の活動

##### 教育

基盤教育の英語(総合英語)においては, 授業の半分は英語を使って授業をした。pair work を授業形態の中心に起き, 学生が英語の音読, 聞き取り, 発話などの行動を二人一組の共同作業とした。これにより, 学生たちは, 相互の関係性の中で意欲的に授業行動をすることができたと考える。

専門教育では, 英米の代表的な文学理論(ロシアフォルマリズム, 構造主義, フェミニズム, 精神分析批評, マルクス主義批評, 等)を論じた。講義が一方通行にならないように, 途中で多数の問いを發し, その解決を pair work の中でしてもらった。また, 大きな1つの問いを毎回投げかけ, それに対する自分の考えを記す「レスポンスの時間」を設け, 自分の頭で考え, それを文章にする機会を作った。

##### 地域連携

出張講義: 2017年5月に, 天童高校において出張講義および進学説明会を実施した。前者においては, 小説の挿絵と現代の漫画の関係性を論じた。

高校訪問: 2017年10月に, 仙台高校と東北高校に対して実施し, 相手校の進路指導担当教員と高校生の進路に関する情報交換をした。

企業訪問: 2017年12月に学生を伴い仙台の企業訪問をした。企業訪問の相手はマクロミル(アンケート調査会社)と仙台銀行である。学生と一緒に企業訪問することにより, 学生がより直接的に企業の業態を確かめられる機会を得ることができた。同時に, 企業と教員の意見交換や情報交換もすることができた。

#### (6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 科研の課題に沿って, ディケンズの文体を感傷主義の観点より「涙」と「子供」を中心として解析し, その文体の特色を個別作品の変数として明確に数値化することができた。結果的に, 従来の主観的な批評を文体の数値として裏付けることができた。他方, 涙と子供がどのような具体的場面で描かれているのかを検証するパッセージ分析については, 分析を推し進めているが, 結論を得るには至っていない。

教育面では, pair work の活動を積極的に取り入れ, 授業全体が活性化するように考える。また, 「レスポンスの時間」を設け, 自分の頭で考えることを推奨した。スマホで瞬時に圧倒的な情報を安易に獲得できる現在において, そのような知の普遍的氾濫に対抗するには自分で考える力を持たないとならないと考えたからである。

## 西岡 正樹

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)
- (5) 教育, 地域連携等の活動

〔教育〕担当授業科目 (専門科目): 刑事法基礎 (刑法担当), 総合講座Ⅱ (法律), 刑法Ⅰ, 刑法Ⅱ, 刑法演習Ⅱ

〔地域連携等〕近時の刑事立法に関する取材を受け, 一部が新聞記事として掲載された (5月10日付山形新聞27面). 学外委員2件 (山形地方裁判所委員会委員, 山形市国民健康保険運営協議会委員) を担当した.

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については, 科学研究費補助金 (基盤研究 (C) 研究課題「常習犯に関する総合的研究」) を得て, 常習犯規定に関する研究に本格的に着手した. また, 「違法性の錯誤」に関する研究をさらに発展させ論文を執筆した. 当該論文と併せて, 常習犯に関する論文も平成30年度に公表予定である.

教育活動については, 昨年度の授業評価等を踏まえつつ, 特に学生の理解が不十分であった点について解り易く講述した. 結果として, 履修者の理解度および授業評価アンケートの結果は良好であった. 担当した科目の受講者は, 2年次開講科目については150名超, 演習所属学生は3年次生10名, 4年次生11名であった.

## 西上 勝

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)

「徐渭の墨牡丹」(中国詩学研究会 (五皓), 平成29年9月)

- (4) 研究成果 (その他)

山形新聞「ことばの杜へ」欄 (毎週土曜日掲載) に, のべ六回にわたって寄稿した.

- (5) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

研究科: 中国中世文化論特論など

専門教育: 中国文学概論など

基盤教育: 共通科目コミュニケーション・スキル2「中国語」

〔地域連携〕

第66回東北中国学会 (5月, 於弘前大学) の研究発表の司会を務めた.

8月, 小白川キャンパスで実施された教育免許状更新講習 (国語科, 講習名「国語教材の研究」) の講師を務めた.

小白川キャンパスで開催された全国学会の日本中国学会第69回大会 (10月) 準備会代表を務め,

大会開催を遅滞なく遂行した。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

**藤田 稔**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

「優越的地位の濫用規制に関する考察」2017.5 『経済法の現代的課題 舟田正之先生古稀祝賀』  
所収 有斐閣 377-393頁

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

「アフターマーケットにおける抱合せ [東芝昇降機サービス事件]」2017.10 別冊ジュリスト  
234号130-131頁

(5) 教育、地域連携等の活動

「経済法1」「知的財産法」「経済法演習」「経済法と憲法の間観を通じて（人間を考える）」  
「専門基礎演習」と、「総合講座2（法律）」の1コマを担当。

独占禁止政策協力委員として、独占禁止政策のあり方について、公正取引委員会に対して、意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として、弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として、学会の運営に従事した（10月に退任）。

公正取引委員会事務局東北事務所が設置した東北経済法研究会で、座長として研究を行った。

山形県立保健医療大学の倫理委員会委員を務めた。

山形市公設卸売市場取引委員会の委員長を務めた。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

特にない。

**洪 慈乙**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

・会計の測定問題として「公正価値」の意味を考える、山形大学人文社会科学部『研究年報』第15号、pp. 61-77.

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

・教育活動：基盤教育（簿記入門）、学部（会計学、財務会計、会計学演習、ビジネス創業実践演習補助）

・地域連携：まちづくり調査のため、新潟市中心市街地活性化政策および新潟市 GIS センターの活動調査

(6) 研究・教育活動に関するコメント

## 本多 薫

### (1) 研究成果 (著書)

1) 本多薫：A心拍「視覚実験研究ガイドブック」, 朝倉書店, p.195-201, 2017.

### (2) 研究成果 (論文)

1) 門間政亮, 本多薫：直線の地上絵における形状と制作時期との関係について, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第14号, p.35-44, 2017.

### (3) 研究成果 (学会発表)

1) 本多薫：パーソナルコンピュータを用いた学習時のストレス反応からの休憩時間の検討, 日本教育工学会第33回全国大会講演論文集, 島根大学 (松江市), p.125-126, 2017年09月16日

2) 門間政亮, 本多薫：モニター画面の端に意識を向けた場合の中央に表示された情報に与える影響, 第13回日本感性工学会春季大会予稿集, 名古屋大学 (名古屋市), wp2.30\_1-2, 2018年03月28日

### (4) 研究成果 (その他)

### (5) 教育, 地域連携等の活動

授業：(学部) 人間情報科学概論, プログラミング演習, 人間文化入門総合講義, 情報処理演習, 情報科学演習, 情報科学実習, 公務員対策セミナー：(大学院) 人間情報科学特論Ⅱ

卒業研究の指導 (人間情報科領域担当として指導)：

- (a) 日本の教育現場におけるICT活用の現状分析と提言
- (b) 家電製品における報知音と音声の比較-炊飯器を例として-
- (c) 言語的な情報伝達における強調の効果について
- (d) 顔文字とLINEスタンプの効果に関する研究-相手との上下関係に着目して-

地域貢献活動等：

- (a) 日本人間工学会 代議員
- (b) 日本人間工学会第59回全国大会実行委員会 委員
- (c) 日本経営工学会 東北・北海道支部 支部長 (~ H29.6. まで)
- (d) 日本経営工学会 代議員 (~ H29.6. まで)
- (e) 土木学会 地下空間研究委員会心理小委員会 委員

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

平成29年度は, パーソナルコンピュータを用いた学習が学習者に与えるストレス (生体負担) と休憩時間との関係, ワイドディスプレイの情報表示に関する研究を実施した. また, ナスカ台地の直線の地上絵における形状と制作時期との関係を検討し論文にまとめた. また, 教育としては, 情報科学関連の講義と演習を担当するとともに, 他教員との共同で卒業研究の指導を行った.

## 松尾 剛次

### (1) 研究成果 (著書)

『小説に見る山形』(山形県生涯学習財団, 2017) (共著)

### (2) 研究成果 (論文)

(1) 「親鸞伝再考～玉日姫は実在したのか」『第18回国際真宗学会論文集浄土教における自利と

利他』2017年7月 pp221-227

- (2) 「鎌倉極楽寺流の成立と展開－初代から九代までの極楽寺歴代往持に注目して－」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要第十四号』2017年9月 pp 1-20
- (3) 中世叡尊教団の伯耆・因幡・出雲・石見四国における展開～国分寺等に注目して～』『山形大学歴史・地理・人類学論集』第19号, 2018年3月 pp61-76
- (3) 研究成果(学会発表)
  - ・18th Biennial Conference of the International Association of Shin Buddhist Studies(武蔵野大学, 2017年7月1日)で「親鸞伝再考－玉日姫は実在したのか」と題して口頭報告を行った。
- (4) 研究成果(その他)
  - (1) 新聞記事 『六大新報』に「叡尊による西大寺中興の意義とは」を毎月1回連載, 「山コミ」に「最上三代 その栄光と蹉跌」を毎号連載。
  - (2) 書評 「高橋義夫著『さむらい道』」『山形新聞』2017年4月23日, 「十川陽一著『天皇側近たちの奈良時代』」『山形新聞』2017年5月31日, 「柳原正治, 篠原初枝編『安達峰一郎－日本の外交官から世界の裁判官へ』」『山形新聞』2017年7月26日。
- (5) 教育, 地域連携等の活動

都市研所長として第7回安達峰一郎弁論大会などを開催, 山形学企画委員, 大石田町諮問委員長, 寺子屋子ども大学代表, NPO「山形の魅力再発見プロジェクト」代表, 山交カルチャー, NHK文化センター講師, 日台政策研究所理事長などを勤めた。
- (6) 研究・教育活動に関するコメント

著書1, 論文3, 学会発表1など充実した研究活動であった。

主査の卒業論文4本, 修論1本, 講義など教育にも努力した。新聞などの連載記事の執筆や地域連携活動に多くの時間が取られ, 研究・教育の時間が減っているのが残念である。新年度は現役最後の年であり, 研究中心でいきたい。

## 松本 邦彦

- (1) 研究成果(著書)
- (2) 研究成果(論文)
- (3) 研究成果(学会発表)
- (4) 研究成果(その他)
  - ・2017年9月30日(土曜日), 山形大学人文社会科学部にて, 山形大学都市・地域学研究所主催の公開講座「山形の魅力再発見 パート15」シリーズの一環として「山形と外国人」を発表(90分)→同報告集掲載(2017年12月発行/028頁～036頁) 特に最近30年で県におこった激変について考察をしました。
- (5) 教育, 地域連携等の活動
  - 〈模擬講義〉
    - ・2017年7月21日(金曜日), 山形大学にて, 新潟県立新発田南高校の高校生に模擬講義「辺境から世界に挑戦して:近代日本の戦争と平和」(60分)
    - ・2017年8月11日(金曜日), 山形大学人文社会科学部オープンキャンパスにて模擬講義「これ

からのためにこれまでを考える：日本の外交と戦争」(50分授業を午前と午後の2回)

- 2017年11月9日(木曜日), 山形大学人文社会科学部にて, 山形県立寒河江高校の高校生に模擬講義「辺境から世界に挑戦して：近代日本の戦争と平和」(90分)

〈地域連携〉

- 新たに, 2018年1月1日から2019年12月31日までとして, 「子育てするなら山形県推進協議会委員」.
- 昨年度にひきつづき, 「山形市コミュニティファンド評議委員会委員」.
- 2018年2月24日(土曜日), 河北町にて高校生との懇談会(特定非営利活動法人河北子育てアドバイザーセンター主催).

#### (6) 研究・教育活動に関するコメント

研究では2017年度～2019年度の科研費(基盤C)をいただき, 研究課題名「植民地支配の遺産と多文化共生政策: 地方政治家と朝鮮学校を中心に」(課題番号: 17K03575)に取り組んでいます。特に植民地朝鮮と戦後日本で活躍した人物を中心に調べていますが, 本人の著作は多数ある一方で同時期の周辺の人物からの言及が少ない方で, 足跡をたどるのに手間取っています。

教育では期末の評価をレポートから試験に切り替えつつあります。多面的な評価ができるよう努めていきます。

#### 松本 剛

##### (1) 研究成果(著書)

##### (2) 研究成果(論文)

[単著論文]

- 「参与観察者によって客体化された考古学プロジェクト ～パブリック考古学における新たな試みもたらした教訓」『東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報』第20号, 2017, pp.9-15
- 「アンデス斉一説にもとづく祖先イメージの再検討 ―ペルー北海岸シカン遺跡からの考古学データをもとに―」『古代アメリカ』第20号, 2017, pp.15-40

##### (3) 研究成果(学会発表)

[口頭発表]

- 「Paisaje y territorio en el núcleo ceremonial de Huacas de Sicán」(Gabriela De Los Ríosとの共著, 松本剛は筆頭著者) Simposio Internacional: Paisaje y Territorio. Prácticas Sociales e Interacciones Regionales en los Andes Centrales, Jueves 16-17 de noviembre de 2017 @Universidad Nacional Mayor de San Marcos
- 「Exploring the multiplicity of the Lambayeque society during the Middle Sicán period (A.D. 950-1100)」(Gabriela De Los Ríosとの共著, 松本剛は筆頭著者) Institute of Andean Studies, 58th Annual Meeting, January 5, 2018 @University of California, Berkeley

##### (4) 研究成果(その他)

##### (5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- スペイン語1

[学会活動]

- 古代アメリカ学会事務幹事補佐

[地域連携等]

- 講演「多様化する社会と医療と文化人類学」公益社団法人 大阪府看護協会による招待で医療法人春秋会 城山病院（大阪府羽曳野市）での講演（2017年4月9日）
- 講演「多様化する社会と医療と文化人類学」医療法人永広会 島田病院（大阪府羽曳野市）での招待講演（2017年4月10日）
- 新聞記事「Develan un nuevo secreto de los artesanos mochicas」『El Comercio』2007年9月25日朝刊
- 新聞記事「ペルー遺跡で人骨発見 山形大 儀礼の犠牲者か」『日本経済新聞』2017年10月19日朝刊
- 新聞記事「山形大ペルー1000年前の都市 発掘調査 自然災害に屈せず営為」『山形新聞』2017/10/20朝刊
- ウェブ記事「Lambayeque: así lucen los restos intactos de dos orfebres mochicas [FOTOS]」『El Comercio』2017年9月25日
- ウェブ記事「Descubren sacrificios humanos con más de mil años de antigüedad」『RPP Noticias』2017年9月25日
- ウェブ記事「Perú: descubren rastros de sacrificios humanos de hace más de mil años」『DW』2017年9月26日
- ウェブ記事「Lambayeque: Hallan restos de un sacrificio humano de más de mil años en Sicán」『Diario Trome』2017年9月26日
- ウェブ記事「Arqueólogos descubren tumbas con nueve víctimas de sacrificios humanos」『24 Horas』2017年9月26日
- ウェブ記事「1,000-Year-Old Victims of Human Sacrifice Found in Peru」『Archaeology Magazine』2017年9月27日
- ウェブ記事「1000-year-old gravesite yields traces of human sacrifice」『ABS-CBN News』2017年9月27日
- ウェブ記事「Pre-Incan grave with skeletons of 1,000-year-old human sacrifices found in Peru」『International Business Times』2017年9月27日
- ウェブ記事「Középkori sírokat tártak fel Peruban」『euronews』2017年9月27日
- ウェブ記事「1000 yıl önce kurban edilen insanların iskeletleri bulundu」『VATAN』2017年9月27日
- ウェブ記事「Penemuan makam tumbal berusia 1.000 tahun di pesisir Peru」『merdeka.com』2017年9月27日
- ウェブ記事「La tumba de un orfebre de la élite de Sicán y otros hallazgos de la cultura de Lambayeque」『National Geographic España』2017年10月3日
- ウェブ記事「ペルー遺跡で人骨発見 儀礼の犠牲者か 山形大」『日本経済新聞』2017年10月19日

- ウェブ記事「ペルーの遺跡で人骨発見 山形大、儀礼の犠牲者か」『産経フォト』2017年10月19日
- ウェブ記事「山形大、ペルーの遺跡で人骨発見 宗教儀礼の犠牲者か」『山形新聞』2017年10月19日
- ウェブ記事「山形大の発掘調査、宗教儀礼の跡も 1000年前のペルー都市、洪水後も社会維持か」『山形新聞』2017年10月20日
- ウェブ記事「〈山形大〉ペルーの遺跡で新発見 洪水時のいけにえか」『河北新報』2017年10月24日

(6) 研究・教育活動に関するコメント

日本学術振興会・特別研究員奨励費（課題番号：16J09126／研究課題名：古代アンデス文明における都市の社会動態についての研究）および

科学研究費補助金・新学術領域研究（課題番号：17H05109／研究課題名：ペルー北海岸シカン遺跡の発掘：人類社会と自然環境の相互作用に関する研究）によって、ペルー北海岸シカン遺跡において考古学発掘調査を実施した。

**松本 雄一**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

Yuichi Matsumoto, Jason Nesbitt, Michael D. Glascock, Yuri I Cavero Palomino, and Richard L. Burger

2017 Interregional Obsidian Exchange during the Late Initial Period and Early Horizon: New Perspectives from Campanayuq Rumi, Peru. *Latin American Antiquity* 29 ( 1 ): 44-63. Society for American Archaeology/Cambridge University Press. (査読あり)

山本睦, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 松本雄一

2017 「ペルー南海岸、ラ・ベンティーヤ遺跡の発掘調査」『古代アメリカ』20: 95-106. 古代アメリカ学会.

(3) 研究成果（学会発表）

松本雄一

2017 ペルー南海岸におけるワリ帝国の進出に関する考察－インヘニオ谷踏査からの新たな視点－ 新学術研究「古代アメリカの比較文明論」領域会議. 7月2日. 於 国立民族学博物館.

Yuichi Matsumoto, Jason Nesbitt, and Yuri I. Cavero Palomino

2017 ¿Cupisnique en la sierra Central? Piezas de Cupisnique Clásico en Huánuco y Ayacucho. I Simposio de Arqueología – UNT: El Periodo Formativo en la Costa Norte. June 8, Universidad Nacional del Trujillo, Peru.

Yuichi Matsumoto, Yuri I. Cavaero Palomino, and Jason Nesbitt

2017 Utilización y Adecuación del Paisaje Natural en Construcciones Monumentales durante el Periodo Inicial y Horizonte Temprano. Simposio Internacional. Paisaje y Territorio, prácticas sociales e interacciones regionales en los Andes Centrales. November 17, Universidad Nacional Mayor de San

Marcos, Lima, Peru.

Yuri I. Cavaero Palomino, Yuichi Matsumoto, and Jason Nesbitt

2017 Utilización y Adecuación del Paisaje Natural en Construcciones Monumentales durante el Periodo Inicial y Horizonte Temprano en Ayacucho. Primer Encuentro Regional de Egresados de Arqueología. November 15, Universidad Nacional San Cristobal de Huamanga, Ayacucho, Peru.

松本雄一, ホルヘ・オラーノ, 坂井正人

2017 「ペルー南海岸におけるミドホライズンの様相」 古代アメリカ学会第22回研究大会. 12月2日 於 茨城大学.

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

Yuichi Matsumoto

2017 Nuevas Perspectivas a la arqueología de Nasca: Recientes Investigaciones de Universidad de Yamagata. 10月18日 山形県人会100周年記念式典. 於 日秘文化会館, リマ, ペルー.

(6) 研究・教育活動に関するコメント

ペルーナスカ市の山形大学人文社会科学部附属ナスカ研究所に勤務し, 入試及び大学院関係の業務を行いつつ, プロジェクトの調査, 文化財の保存活動に従事した. 現地では研究に時間を割くことが困難であったが, 調査を通じて現地の学生を教育するなど今後に生かすことのできる経験には恵まれたと感じている. また, ここ数年, 米国テュレーン大学, ミズーリ大学, イェール大学, ペルー国立サンマルコス大学の研究者との間で進めてきた共同研究が, ケンブリッジ大学出版局から出版されているアメリカ考古学会の権威ある学会誌に採択, 掲載されたことは, 今後の研究活動においても重要な意義があると考えている.

## 丸山 政己

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

- (論文) 「国連安全保障理事会における『補完性原則』の可能性に関する覚書」岩沢雄司・中谷和弘責任編集『国際法研究 第6号』(信山社, 2018年3月) 47-74頁
- (論文) The NY Declaration for Refugees and Migrants Adopted by the UN General Assembly: Towards a New International Legal Framework?, Faculty of Literature & Social Sciences, Yamagata University Annual Research Report, vol. 5 (March 2018), pp. 171-184

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

- 担当科目: 国際法, 国際組織法, 国際法演習, 総合講座 I, II (それぞれ1回分を担当)  
国際法と現代国際社会における共生 (基盤教育, 共生を考える)
- 山形北高校出張講義 (6月15日) 「国際法って何? - 捕鯨問題を通して考えてみよう -」
- 寒河江高校研究室訪問対応 (7月11日) 「北朝鮮の核兵器開発に対して国際社会は何ができるのか」

- 慶応義塾大学法科大学院ゲスト・スピーカー（「EU法」「EU戦略法務ワークショッププログラム」の2コマ、7月13日）「国連安全保障理事会と国際立憲主義について」
- アカデミックキャンプ2017講師「シリア問題から考える国際関係」（8月8日-9日）
- 人文社会科学部学術講演会（佐藤哲夫・一橋大学教授「国際公益と国連安全保障理事会」10月26日）の開催
- 安達峰一郎研究関係：山辺町安達峰一郎博士顕彰会との連携として、①書簡等のPDFデータ化作業、②書簡集編集委員会の開催（2018年3月9日）、関連して、やまがた地域社会研究所の一部として安達峰一郎研究資料室の立ち上げ作業、YTS山形テレビ「提言の広場：シリーズふるさと人の偉人①安達峰一郎～山形が生んだ「世界の良心」～」（6月10日放送）の制作協力、科研費（基盤研究B）「外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究」（研究代表者：柳原正治）のキックオフ研究会@山形大学の開催（6月30日）など
- 学内委員：コース入試委員会委員、データ・判例検索室担当（山形大学法学会研究会担当）、人事選考委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究について、これまでの研究をまとめると同時に、今後数年間にわたる作業の土台を築いた年であったように思う。

**宮腰 直人**

(1) 研究成果（著書）

- 宮腰直人編著『文学史の時空』（笠間書院、2017年）「南奥羽地域における古浄瑠璃享受—文学史と語り物文芸研究の接点を求めて」257-274頁。編集を担当したほか巻頭で各論文の概要と意義をまとめた総論を執筆した。

(2) 研究成果（論文）

- 「『孝子善之丞感得伝』の世界—仏教説話とフィクションの問題をめぐって」（「Nord-est」10号、23-28頁、2017年5月）

(3) 研究成果（学会発表）

- 「『義経地獄破り』の生成と富士浅間信仰—地獄極楽遍歴譚の新生をめぐって」研究集会「日本文学の展望を拓く」（於立教大学池袋キャンパス）2018年3月16日
- 「米沢藩士と語り物文芸——平曲と幸若舞曲を中心にして」（研究集会 薩摩藩の文芸とその環境 2017年12月17日 立教大学日本学研究所）
- 丹緑本の「発見」と「再創造」（「お伽草子再発見」大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本の創出 共同研究会 2017年11月18日 国際日本文化研究センター）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

- 「米沢藩の〈再生〉と書物文化—上杉鷹山とその時代を中心にして」（【講師】山形大学・台湾師範大学交流プロジェクト 2018年2月2日）
- 「『童子百物語』の世界—米沢・置賜地域の語り物文化」（市立米沢図書館 古典文学講座 2017年9月13日）

- ・「『酒吞童子』と山形の説話・昔話—鬼を描く，鬼を語る」（山寺芭蕉記念館 2017年8月19日）
- ・「浦島太郎を研究する方法—龍宮城ってどんなところ 古典文学への招待」（2017年8月11日 山形大学人文社会科学部オープンキャンパス）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

- ・科研基盤C「奥浄瑠璃の享受と諸本形成の研究—出羽三山・奥羽地域の芸能環境と書物文化の解明」
- ・米沢を中心として地域の書物文化と芸能環境について調査研究をはじめ，徐々に成果を出せつつある．引き続き研究を進めたい．また，従来，取り組んできた中世・近世の絵巻や絵入り本研究についても在外日本研究や近代社会における受容へと視野を広げつつあり，新たな展望をもつことができた．引き続き絵巻や絵入り本の資料学の構築を考えていきたい．

**村松 怜**

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育，地域連携等の活動

担当授業：経済政策論（前期）（後期），日本経済論，基礎演習，経済政策論演習

学内委員：入試小委員

地域・社会連携：鶴岡南高等学校での出張講義

学会活動：政治経済学・経済史学会事務局（2017年11月から）

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

**森岡 卓司**

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）

〔単著論文〕故郷をめぐる抗争 —『日本浪漫派』における亀井勝一郎と山形高等学校『校友会雑誌』—／『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第14号 2017（平成29）年9月30日 pp94（21）～83（32）

〔単著論文〕雑誌『労農』研究 —占領期山形における地方文化運動の再検討のために—／国際日本文化研究センター『日本研究』第56集 2017（平成29）年10月20日 pp149～171

- (3) 研究成果（学会発表）

〔単独発表 予稿集有〕山形高等学校『校友会雑誌』の出発と一九三〇年代浪漫主義文学—『日本浪漫派』における亀井勝一郎—／国立台湾師範大学・台北高等学校同学会「台北高等学校創校95週年：学養與自治精神的伝承」国際学術研討会 2017（平成29）年4月22日 国立台湾師範大学（台湾）

〔単独発表 予稿集有〕詩人長崎浩の山形と台湾／東亜細亜日本学会・東北亜細亜文化学会・日本文芸研究会 2017年秋季聯合国際学術大会 2017（平成29）年10月28日 東亜大学校（韓国）

(4) 研究成果 (その他)

[展望論文]「近代日本文学における「東北」表象と地方文化運動」/日本近代文学会『日本近代文学』第96集 2017 (平成29) 年5月15日 pp146~152

[対談記事] 石川忠司 森岡卓司「作家はふるさと山形をどう描いたか」/ (公財) 山形県生涯学習文化財団 編 遊学館ブックス『小説にみる山形』 2017 (平成29) 年12月15日 pp179~214

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業] 日本文学演習, 文学概論, 日本文化講読, 日本現代文学講義, 日本語文化論《以上学部専門科目》, 初期村上春樹の世界 (文学), 近代文学の中の山形 (山形から考える)《以上基盤教育科目》, 日本近現代文化論特論, 日本近現代文化論特別演習《以上大学院科目》

[卒業論文, 修士論文 (主査のみ) 卒業論文7名

[出講] 放送大学宮城学習センター面接授業/2017 (平成29) 年5月6~7日

[出前講義] 山形西高等学校/2017 (平成29) 年7月19日

[出前講義] 気仙沼高等学校/2017 (平成29) 年10月17日

[記事]「やまがた再発見」353. 結城哀草果 上, 354. 結城哀草果 下/『山形新聞』 2017 (平成29) 年4月30日, 5月7日

[書評] 柚月裕子『盤上の向日葵』/『山形新聞』 2017 (平成29) 年10月8日

[連載記事] 山新文学賞「選考経過」/『山形新聞』 2017 (平成29) 年4月~2018 (平成30年) 3月まで計12回 (継続中) に加え, 2017.12に総集編1回

(6) 研究・教育活動に関するコメント

[学 (部) 内委員会] 広報委員会, 大学院教務厚生部会, PBL 準備委員会, 映像文化研究所運営委員, 他

[学会における活動] 日本近代文学会東北支部運営委員, 日本比較文学会東北支部役員, 日本比較文学会全国大会実行委員, 日本文芸研究会常任委員, 日本文学協会委員

[科研費] 基盤研究 (B), 2016年04月 ~ 2021年03月, 東北地方における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究 (研究代表者)

[科研費] 基盤研究 (B), 2016年04月 ~ 2021年03月, 占領期ローカルメディアに関する資料調査および総合的考察 (研究分担者)

[その他] 大学主催朗読コンテスト審査員 (第一次審査), 他大学との合同ゼミ合宿の開催 (日本近代文学東北インカレゼミ, 参加は福島大, 東北大, 弘前大, 盛岡大, 立教大など)

**諸田博昭**

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

- ・慶應義塾大学東アジア研究所プロジェクト「近世・近代アジア経済史の総合的探究」研究会 (2017年12月26日~28日に ANA クラウンプラザホテル神戸にて開催) に参加

- ・ 科研費プロジェクト「前近代および近代移行期における貨幣と信用」第5回研究集会兼 『貨幣と信用の新しい地平：歴史と理論の融合にむけて』出版準備会合（2018年3月3日～4日に開催）に参加

- (5) 教育，地域連携等の活動
- (6) 研究・教育活動に関するコメント

## 安田 均

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）

「労働生産過程論の埋没とその影響」『山形大学紀要（社会科学編）』第48巻第2号（2018.2）, 「労働組織と労働の多様性」『山形大学人文学部研究年報』No.15（2018.）

- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育，地域連携等の活動

〔教育〕（基盤教育）〈基幹科目〉市場と人間の生活（人間を考える），（専門）経済原論，同演習〈前後期〉，市場と組織，専門基礎演習，地域社会論，（大学院）株式会社論特論II，株式会社論特別演習，企業経営特別研究II〈前後期〉，（その他）東北学院大学前期・後期各1科目，宮城学院女子大学前期1科目・後期2科目担当。

三大学合同ゼミへの参加（7/8東北学院大学，12/2山形大学），栃木県立大田原高校への出張講義（10/10），

〔地域〕山形県と学部との合同研究会山形仙台圏交流研究会の連絡窓口として，1）高瀬紅花祭り（7.9）に学生とともに参加，2）「経済指標の解説」連合山形『春闘パンフレット』（18.1）。

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

専門基礎演習の1回を生活保護申請窓口（市福祉事務所）での聴き取り調査に当たるところ学生が事前に学習，関心を持って質問していた。同様の試みを続けたい。

## 山口 昌樹

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）

- ・ Yamaguchi, Masaki, Lending behavior of Japanese megabanks in the project finance market of the United States, *Review of Integrative Business and Economics Research*, 6 (4), 94-103, 2017
- ・ Yamaguchi, Masaki, Japanese Banks in the UK Project Finance Market: Observations through Social Network Analysis, *Journal of Business and Policy Research*, 12 (2), 91-100

- (3) 研究成果（学会発表）

- ・ SIBR 2017 Bangkok Conference on Interdisciplinary Business & Economics Research, May 25-26, 2017 Lending behavior of Japanese megabanks in the project finance market of the United States, Emerald Hotel, Bangkok, Thailand
- ・ 47th International Business Research Conference, December 13-14, 2017 Is Japanese regional banks'

overseas business hopeful? : An observation through X-means clustering, Hyatt Regency, Osaka, Japan

(4) 研究成果 (その他)

受賞

Best paper award at 12th ASIA-PACIFIC Business Research Conference, February 27-28, 2017, Kuala Lumpur, Yamaguchi, Masaki, Japanese Banks in the UK Project Finance Market: Observations through Social Network Analysis

拠点形成

- YU-COE (c) 「地域価値創成に貢献する University Entrepreneurship 研究拠点」  
拠点リーダー
- クラウドファンディングのスタディツアー, 2017年10月27日, 東根市

(5) 教育, 地域連携等の活動

教育

- 担当授業: 基盤教育・基幹科目, 金融論, 国際金融論, くらしとマネー,  
国際金融論演習

国際学術交流

- 論文博士号取得希望者に対する支援事業 (日本学術振興会) での指導協力者  
論博研究者 - カザフスタン経営経済大学 Olga Pak 助教授  
予定論文題目 - Bank business models and financial stability in the Eurasian Economic Union's transition economies

2018年3月14-16日にカザフスタン経営経済大学にて論文指導

地域貢献

- 出前講義 米沢興譲館高校 「金融政策は日本経済を救うか」 2017年7月6日
- 金融教育指定高校での講演 宮城県立名取高校 「将来不安に投資力で克つ」 2017年11月7日

社会連携

- 名古屋大学 COI 拠点との意見交換, COI プロジェクト, 工学部, 2017年4月18日
- ロボット試作プロジェクトのワークショップ主宰, OPERA プロジェクト, 工学部, 2017年4月18日
- ロボット研究会, OPERA プロジェクト, 工学部, 2017年4月24日
- 新ビジョナリーリーダーの拠点訪問への対応, COI プロジェクト, 工学部, 2017年5月18日
- ロボット研究会, OPERA プロジェクト, 工学部, 2017年5月22日
- 山口昌樹「社会システム研究委員会」, COI サイトビジットでの報告, 2017年6月23日, 山形大学工学部
- 山口昌樹「社会システム研究」, OPERA サイトビジットでの報告, 2017年7月10日, 山形大学工学部
- 山口昌樹「ロボット社会の経済学」, 名古屋大学・山形大学研究者交流会, OPERA プロジェクト, 2017年11月14日, 名古屋大学 NIC 館
- 山形大学 COI 拠点全体会議での報告, 「日本経済の構造問題とイノベーションの役割」, 山形

大学東京サテライト，2018年3月19日

(6) 研究・教育活動に関するコメント

学内行政の過重な負担にもかかわらず，これだけの業績を残せたことに安堵している。

**山崎 彰**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

Die Gutsherrschaft Friedersdorf und die Melioration des Oderbruchs, in:Jahrbuch für Brandenburgische Landesgeschichte, Bd. 67, 2016（刊行は2017年4月）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育，地域連携等の活動

・基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」（基幹科目），「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」「ヨーロッパ史について考える－文学との対話」（教養科目）

・専門教育

「文化動態論（ヨーロッパ）」「ヨーロッパ史講義（二）」「ヨーロッパ史演習（二）」「ヨーロッパ史英書講読（二）」「卒業論文」

・大学院

「ドイツ史特論」

・山形国際ドキュメンタリー映画祭開催時（2017年10月）に，「フィリピンウィーク」（今村真央准教授企画）を開催した。フィリピンの映画，文学，社会に関する講演，映画上映，パネルディスカッションの総合企画。フィリピン，日本，アメリカ合衆国の研究者や映画人を講師に招聘した。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費・基盤研究（c）「ブランデンブルク農村の市民的交流圏形成に関する研究」（17K01360）

**山田 浩久**

(1) 研究成果（著書）

『地図学の聖地を訪ねて』，二宮書店（共著）

『読みたくなる「地図」東日本編』，海青社（共著）

(2) 研究成果（論文）

山田浩久（2017）地域連携活動に対する大学の役割，季刊地理学，69（1），1-2.

山田浩久（2017）地方観光のインバウンド観光に大学の能動的関与が果たす役割—山形県上山市を事例にして—，季刊地理学，69（1），50-65.

山田浩久（2017）都市域の土地利用変化に対する衛星画像解析の可能性—宮城県石巻市を事例にして—，山形大学大学院社会文化システム研究科紀要，14,65-74.

(3) 研究成果（学会発表）

山田浩久（2017）民営化された仙台空港が抱える今後の課題，東北地理学会，仙台市戦災復興記

## 念館

山田浩久 (2017) 東北地方における観光資源の空間的関連, 東北地理学会2017年度第1回研究集会, シンポジウム「東北地方における次世代観光交流の行方～外国人観光客誘致の観点から～」, 東北学院大学ホーイ記念館

山田浩久 (2017) 山形県におけるDMOの発足とその効果, 日本観光研究学会東北大会, 福島大学

### (4) 研究成果 (その他)

山田浩久 (2018), 観光施策や観光施設に与える影響 (第1～3節), 国道347号通年通行による地域活性化効果の調査研究 (平成29年度版 調査研究), 28-33.

### (5) 教育, 地域連携等の活動

#### 担当授業

##### 基盤教育

- ・山形から考える (観光を考える)

##### 学部教育

- ・人文地理学概論, 地域構造論, 地誌学, 地域構造論演習, 都市地理学調査実習, ツーリズム産業論

##### 大学院教育

- ・都市計画特論, 都市計画特別演習, 調査の方法

##### 高等学校への出張講義

- ・上山明新館高等学校 (演題: 上山市のまちづくり)

##### 山形大学研究室訪問 (研究指導)

- ・山形県立新庄北高等学校2年生

##### きらやかマネジメントスクール

- ・地域資源活用①

##### 自治体職員講習

- ・山形市定住自立圏地域計画講習講師

##### 学外の審議会, 委員会

- ・国土交通省, 東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会委員
- ・山形県版CCRC (生涯活躍のまち) 構想検討委員会委員長
- ・山形市中心市街地活性化戦略本部部員
- ・山形市都市計画マスタープラン見直しに係る研究会委員
- ・山形市にぎわい拠点整備事業審査委員会委員長
- ・山辺町総合戦略有識者会議議長
- ・川西町生涯活躍のまち基本構想・基本計画策定検討委員会委員長
- ・長井市まちづくり基金審査委員会委員
- ・山形県立上山明新館高等学校学校評議委員
- ・日本地理学会代議員
- ・東北地理学会評議員

・人文地理学会学会賞候補者専攻委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

COC 事業の活動成果をもとに、東北地理学会において「東北の次世代観光交流」研究グループを立ち上げ、国際シンポジウムを開催した。また、学内のプロジェクト研究に採用され、次世代観光に関する大型科研費の申請基盤を作ることができた。平成28年度に採用された科研費挑戦的萌芽研究（課題番号：16K13295、研究代表者：山田浩久）では、衛星画像解析による土地利用変化の把握に関する研究成果を公表した。地域連携に関しては、国土交通省の東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会委員を務めるほか、山形県の CCRC 構想検討委員会委員長、川西町の生涯活躍のまち基本構想・基本計画策定検討委員会委員長を務め、高齢化社会に対応する活動に参加した。

**山本 睦**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

2017「ペルー南海岸、ラ・ベンティーヤ遺跡の発掘調査」『古代アメリカ』20：95-106. 古代アメリカ学会。（山本睦は第一著者。坂井正人，ホルヘ・オラーノ，松本雄一と共著）

(3) 研究成果（学会発表）

2017 La transición de paisaje político en el valle de Huancabamba, el extremo norte y la vertiente oriental de los Andes, Simposio Internacional: Paisaje y Territorio, Prácticas Sociales e Interacciones Regionales en los Andes Centrales, Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima, Perú. (口頭発表). 2017年11月18日

2017「ペルー、ベンティーヤ遺跡とナスカの編年」, 第22回古代アメリカ学会研究大会, 茨城大学. (山本睦は第一発表者. 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 松本雄一, 門叶冬樹との共同発表) (口頭発表). 2017年12月2日.

2018 Interacción y complejidad sociopolítica en la frontera norte del Perú. 国際シンポジウム「Rutas e interacciones humanas en los Andes」, 東京キャンパスイノベーション. (口頭発表). 2018年3月6日.

(4) 研究成果（その他）

2018「形成期のフロンティア：ペルー北部を事例として」, 基盤研究 (A)「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」基盤研究 (B)「生物考古学資料にもとづく古代アンデス社会の複雑化過程の解明」2017年度合同研究会プログラム, 国立民族学博物館. (口頭発表). 2018年3月17日.

(5) 教育、地域連携等の活動

〔担当授業〕アンデス文明（人間を考える）, 文化人類学概論（二）, 文化人類学講義（二）文化人類学演習（三）, 文化人類学演習（四）, 文化人類学実習, 文化動態論（人類）

〔地域連携〕

2017「ナスカにおける山形大学の調査・研究」, 希有の会, 在日ペルー大使館. (口頭発表). 2017年11月11日.

(6) 研究・教育活動に関するコメント

「アンデス比較文明論」(科学研究費補助金・新学術領域研究)によって、ペルー南部ナスカ台地周辺において、現地調査を実施した。また、「神殿をめぐる活動と地域間交流の相関からみたアンデス文明形成期の社会動態」(科学研究費補助金・若手 A)によって、ペルー南部ナスカ台地周辺およびペルー北部カハマルカ県で考古学調査に従事した。

吉原 元子

(1) 研究成果 (著書)

梶原豊・伊藤正昭・木谷光宏編『大学生のためのライフデザインのすすめ』リンケージパブリッシング (担当部分:「第4章グローバル化の進展と地域産業」) 2017年

日本インターンシップ学会東日本支部監修『インターンシップ実践ガイド 大学と企業の連携』玉川大学出版部 (担当部分:「インターンシップの基本用語200」の一部) 2017年

(2) 研究成果 (論文)

百瀬恵夫・吉原元子「産地における中小企業の連携活動—富士吉田地域における織物産地の事例から—」拓殖大学経営経理研究所『経営経理研究』第112号, 2018年3月

(3) 研究成果 (学会発表)

「産地の縮小過程における中小企業の行動」日本中小企業学会東部部会, 2017年7月9日, 立教大学 及び 日本中小企業学会第37回全国大会, 2017年10月7日, 大阪商業大学

「産地の縮小過程における社会的分業システムの変容」日本地域経済学会第9回関東支部研究会, 2017年11月18日, 日本大学商学部

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

[教育]

法経政策専門基礎演習, 中小企業論 (前期), 中小企業論 (後期), 中小企業論演習, 山形から産業・中小企業を考える (山形から考える), 公務員対策セミナー (論作文), 中小企業論特論, 中小企業論特別演習

[地域連携等]

山形県国民健康保険運営協議会委員

山形県建築審査会委員

山形県農業・農村政策審議会委員

山形県ベストアグリ賞表彰事業審査員

全国中小企業団体中央会組合資料収集加工事業調査研究委員会委員

山形県中小企業団体中央会平成29年度取引力強化推進事業に係る選考委員

一般財団法人商工総合研究所中小企業組織活動懸賞レポート審査委員

きらやか銀行新規事業進出支援研修会講師 (2017年9月14日)

きらやかマネジメントスクール第3回講師 (2017年11月17日)

村山インダストリー倶楽部平成29年度セミナー講師 (2018年3月23日, 山形テルサ)

平成29年度山形大学公開講座 (人文社会科学部) 第2回講師 (2017年9月28日)

大学訪問にかかる模擬講義（2017年10月11日福島東高校，2017年11月8日長井高校）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

村山総合支庁から受託した「キラリと光る村山の企業・技術情報発信事業」では学生とともに県内企業28社を訪問し、学生のレポートをまとめてフェイスブックに掲載した。また、YU-COE (c), 工学部の OPERA, やまがた地域社会研究所のプロジェクトに関わり、多くの地域や企業を視察・調査する機会に恵まれた。ご協力いただいた方々に感謝したい。

**Ryan, Stephen**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

2018. 2. Cultural Bias in Intercultural Communication. 山形大学紀要（人文科学），第19巻，1号，pp. 17-30.

2017. 7 Think again: Recognizing Hidden Bias in Intercultural Communication. Proceedings of the International Conference on Social Science and Business (ICSSB), p. 1-11. July 25-27, Okinawa, Japan., ISBN: 978-986-87417-7-5

(3) 研究成果（学会発表）

2017. 7. Keynote Speaker. Think again: Recognizing Hidden Bias in Intercultural Communication. International Conference on Social Science and Business (ICSSB), Okinawa, Japan.

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

担当授業：英語コミュニケーション（上級），英作文（上級）英語コミュニティブ（上級），現代外国語（英語1），異文化間コミュニケーションと論特論1，論特別演習

(6) 研究・教育活動に関するコメント

Research area covers Intercultural Communication and English language education

**渡辺 文生**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

渡辺文生（2017）「ノートをとおして分析する日本語学習者による講義の談話の理解」『2017 CAJLE Annual Conference Proceedings』 pp. 279-288. カナダ日本語教育振興会

渡辺文生（2017）「語りの談話における節のくりかえしとその文脈」庵功雄・石黒圭・丸山岳彦（編）『時間の流れと文章の組み立て』 pp. 217-237. ひつじ書房

(3) 研究成果（学会発表）

渡辺文生「ノートをとおして分析する日本語学習者による講義の談話の理解」2017 CAJLE Annual Conference, University of Calgary, Calgary, Alberta, Canada 2017.08.16-17

渡辺文生「話段の展開的構造からとらえる母語場面と接触場面の比較」2018 AATJ Annual Spring Conference, Washington D.C., 2018.03.22

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

担当授業は, 人間文化入門総合講義・言語学総合講義・日本語学文法講義・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語 (二)《以上学部専門科目》, 国語の教材分析 A《以上教職科目》, 日本語意味論特論Ⅱ・日本語意味論特演・特別研究《以上大学院科目》, 言語コミュニケーションのストラテジー (人間を考える)・日本語上級 2《以上基盤教育科目》, 地域貢献等の活動としては, 山形県要約筆記者養成講座講師 (2017.07.16), 教員免許状更新講習 (2017.08.02), アカデミックキャンプ (2017.08.08-09) などを行った。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については, 研究代表者として関わる基盤(c)の科学研究費プロジェクトの研究を中心に学会発表等を行った。そのほか, 2件の科学研究費プロジェクトに研究分担者として従事した。教育活動については, 日本語学の卒業論文 (2名), および修士論文 (2名) の指導を行った。

**渡辺 将尚**

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

ジェノサイドを可能にする思考—ナチズムにおける論理の転換過程 [「山形大学大学院社会文化システム研究科紀要」第14号, 平成29年9月, 45~54ページ]

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

平成29年10月4日 山形県立鶴岡南高等学校にて模擬授業「悪と狂気の比較文学」を実施。受講者39名。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究: ここ数年来取り組んできた, 比較の手法を用いたナチズム研究に対し, 一定の成果を挙げることができたと感じている。従来の研究においては, ナチズムを他の政治体制と比較すること自体, その異常性・一回性・唯一無二性を否定するものと見なされてきたが, 拙論によって, 比較と一回性の否定は必ずしも直線的に結びつくものではないことを示すことができたと思われる。教育・地域連携: 上記模擬授業でも, 後期に担当した「比較文学講義」でも, 「悪と狂気」をテーマの1つとして取り上げ, 受講者と積極的に議論する機会を持った。「悪と狂気」を契機に, 議論を規範や道徳の問題へと拡大させ, 受講者からは大いに好評を得た。